三角比と三角関数

2022.05.09

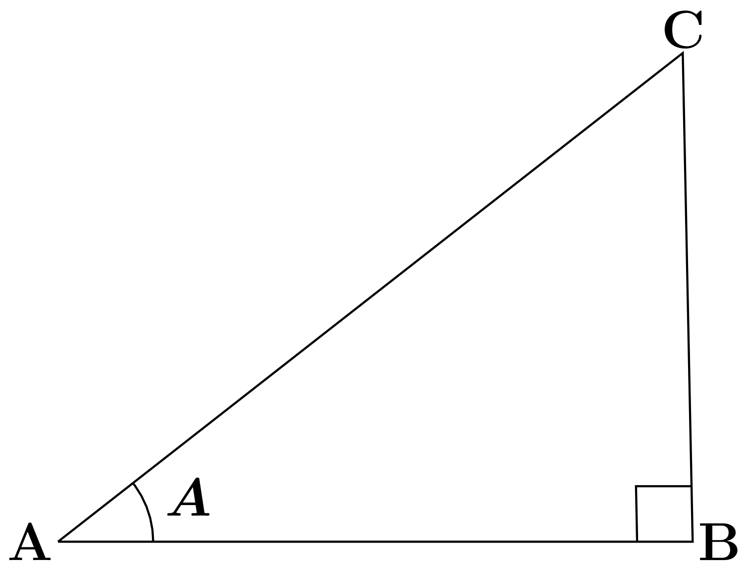
三角比から三角関数へ

三角比 (復習)

$$\cos A = \frac{\mathrm{AB}}{\mathrm{AC}} = \frac{\text{底辺}}{\text{斜辺}}$$

$$\sin A = \frac{\mathrm{CB}}{\mathrm{AC}} = \frac{\text{高さ}}{\text{斜辺}}$$

$$\tan A = \frac{\mathrm{BC}}{\mathrm{AB}} = \frac{\text{高さ}}{\text{底辺}}$$



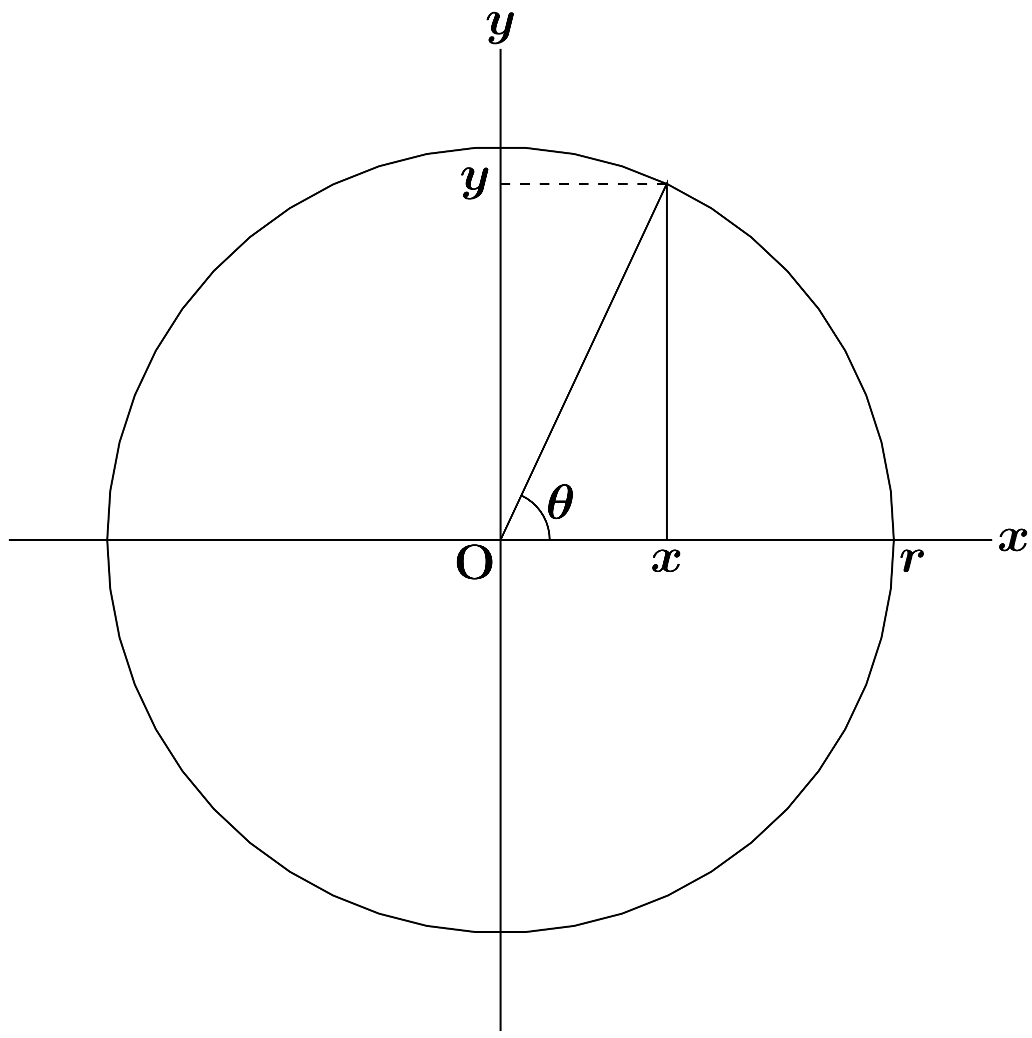
- 辺の比だから，三角形の大きさによらない．

課題　0509-1 問題図の三角形で以下を求めよ．

[1] $\cos A$　[2] $\sin A$　[3] $\tan D$　[4] $\sin D$

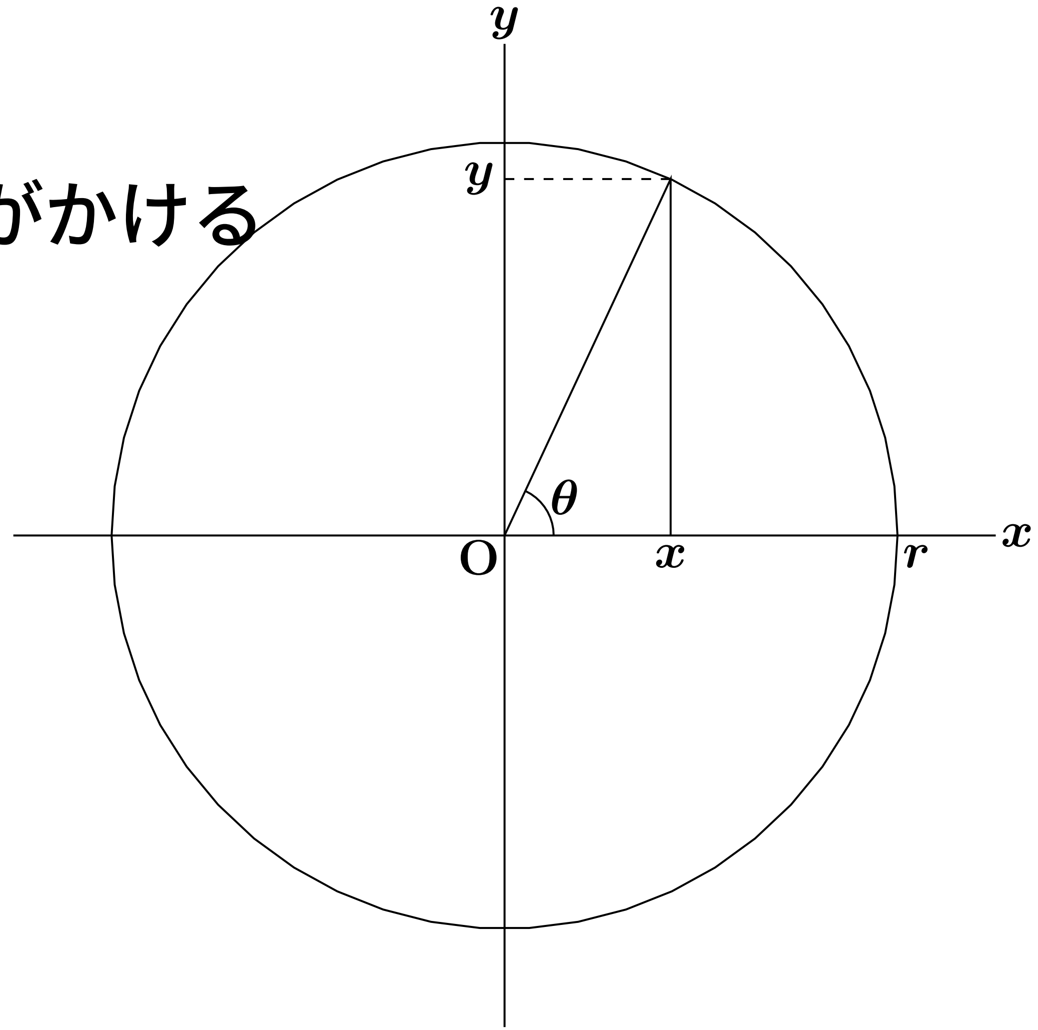
角が 90° より小さい場合 (鋭角)

- 角を θ とおく



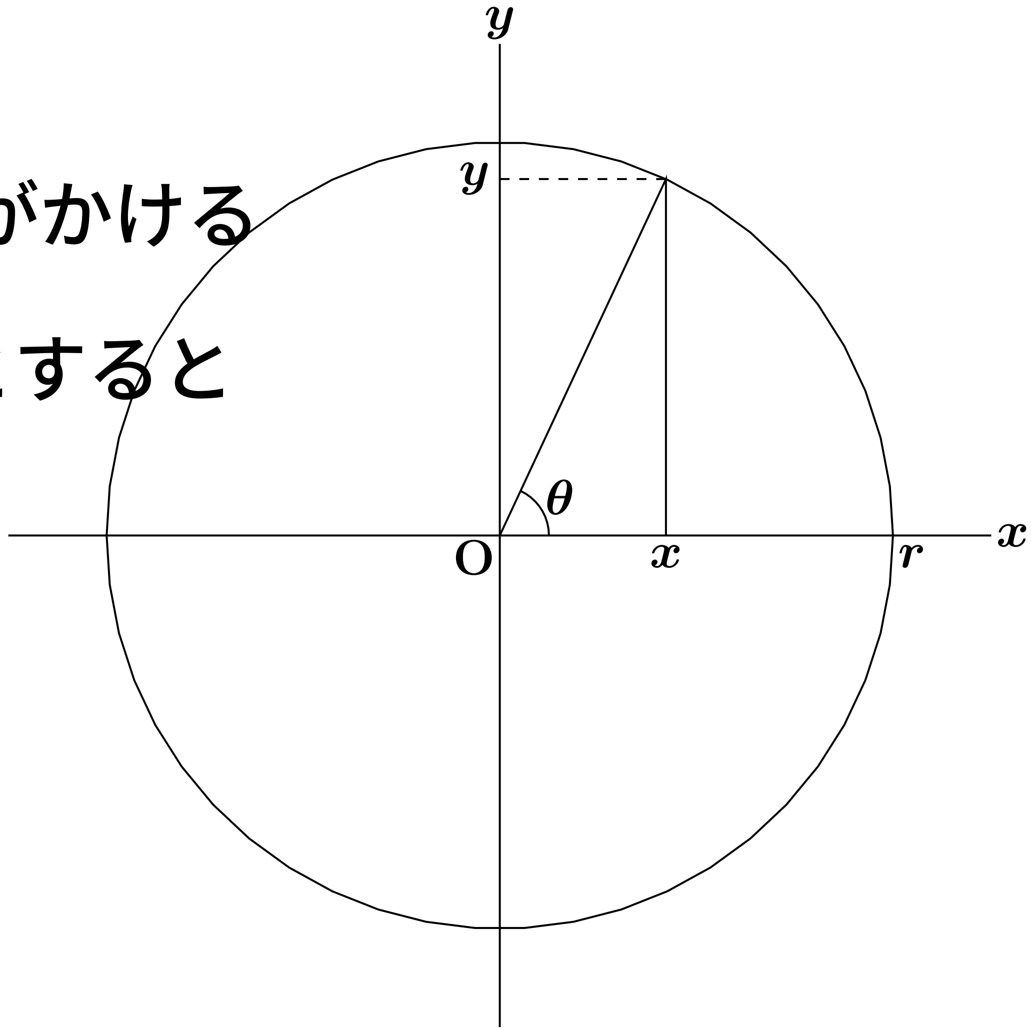
角が 90° より小さい場合 (鋭角)

- 角を θ とおく
- 左の角が θ の直角三角形がかける



角が 90° より小さい場合 (鋭角)

- 角を θ とおく
- 左の角が θ の直角三角形がかける
- 斜辺 r，底辺 x，高さ y とすると



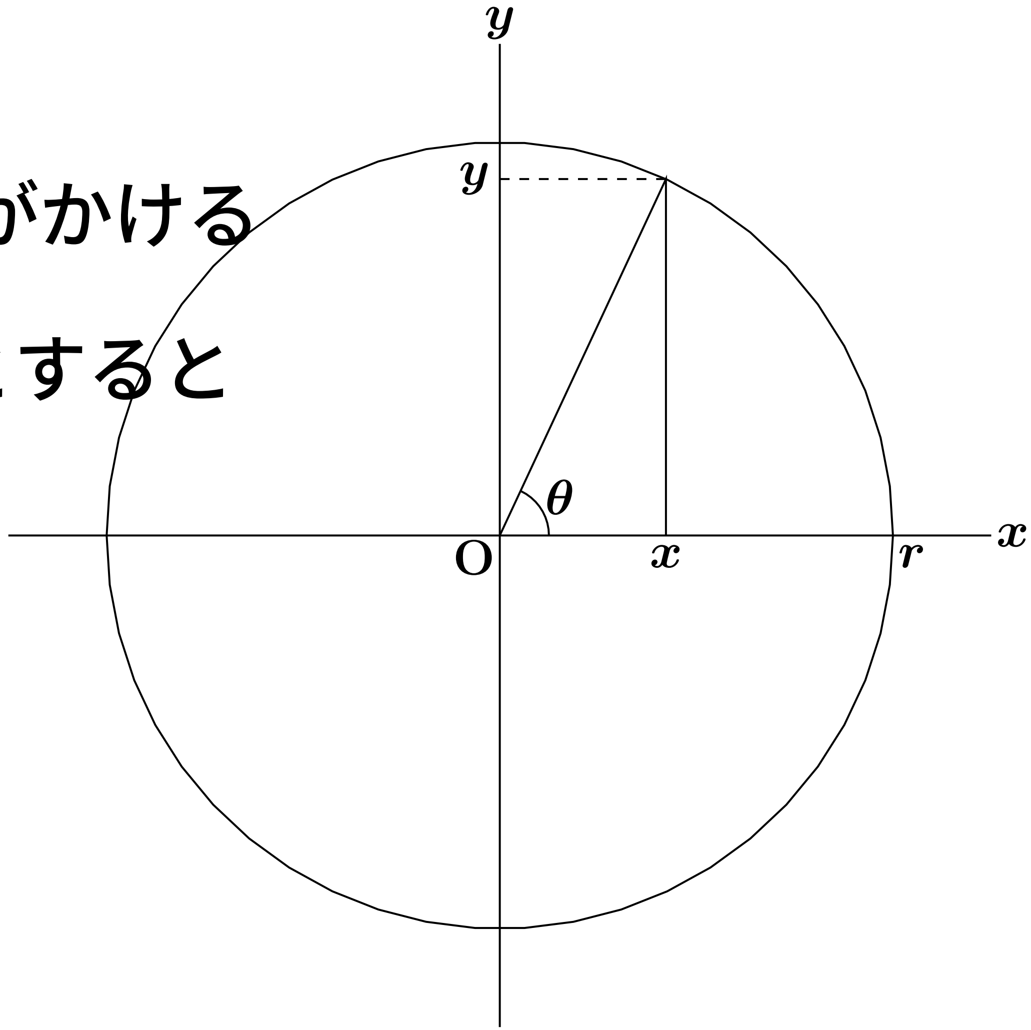
角が 90° より小さい場合 (鋭角)

- 角を θ とおく
- 左の角が θ の直角三角形がかける
- 斜辺 r，底辺 x，高さ y とすると

$$\cos\theta = \frac{x}{r}$$

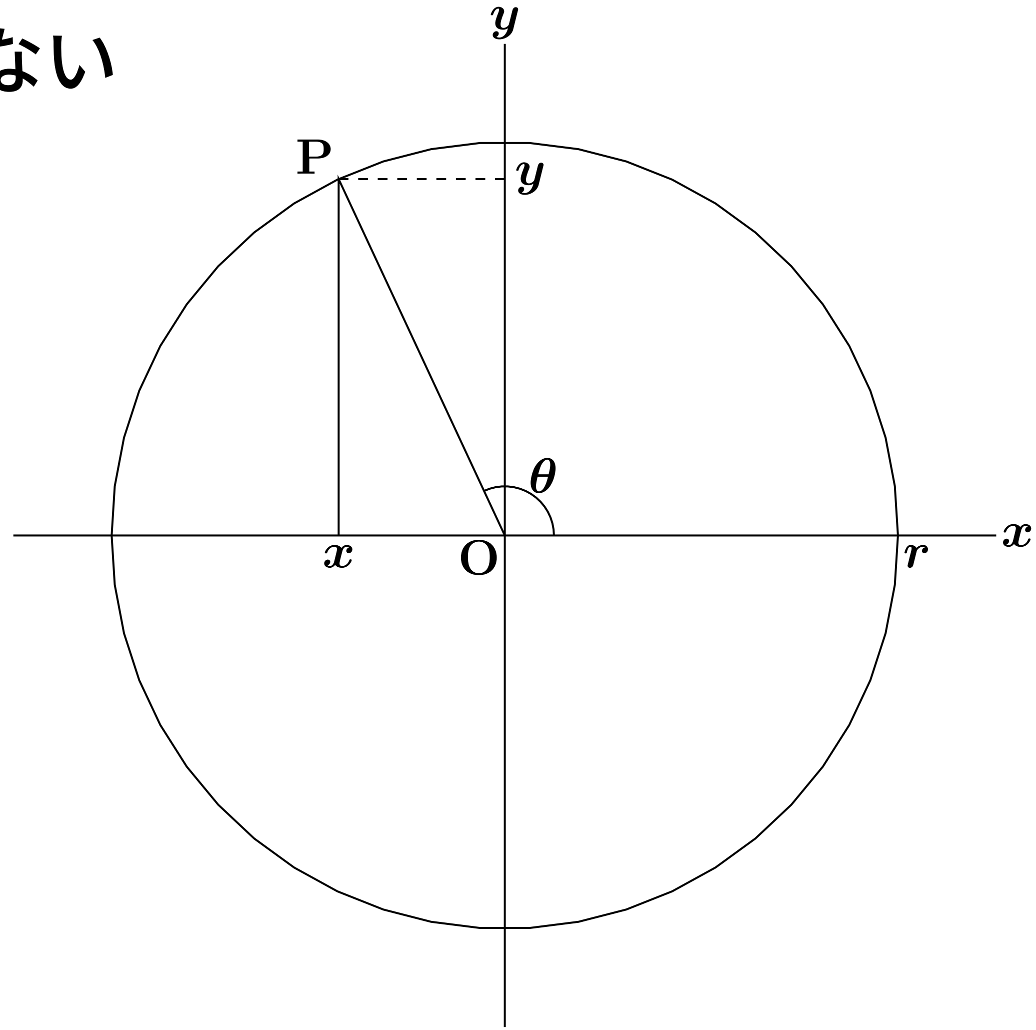
$$\sin\theta = \frac{y}{r}$$

$$\tan\theta = \frac{y}{x}$$



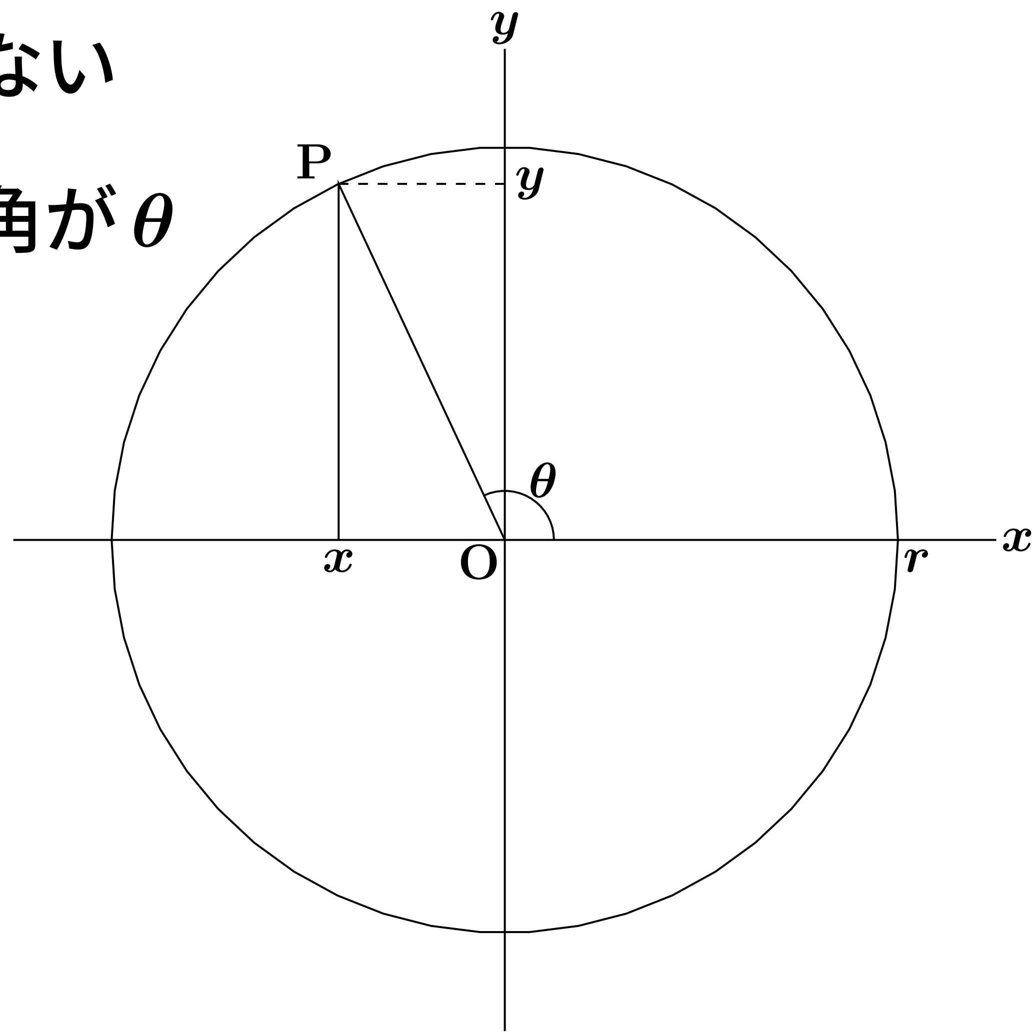
角が 90° より大きい場合

- 角 θ の直角三角形がかけない



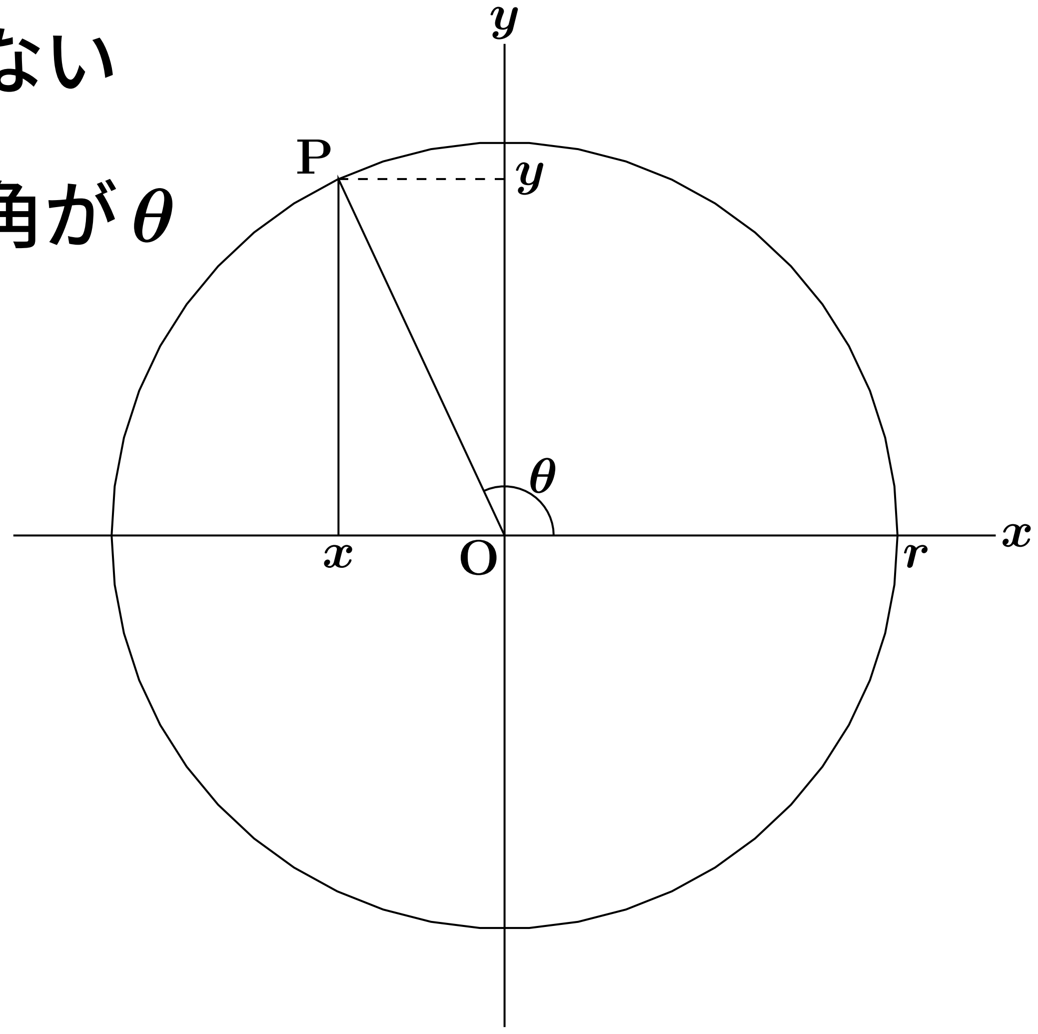
角が 90° より大きい場合

- 角 θ の直角三角形がかけない
- 半径 r の円上に x 軸との角が θ である点 P はとれる



角が 90° より大きい場合

- 角 θ の直角三角形がかけない
- 半径 r の円上に x 軸との角が θ である点 P はとれる
- P の x 座標は底辺
  y 座標は高さに対応



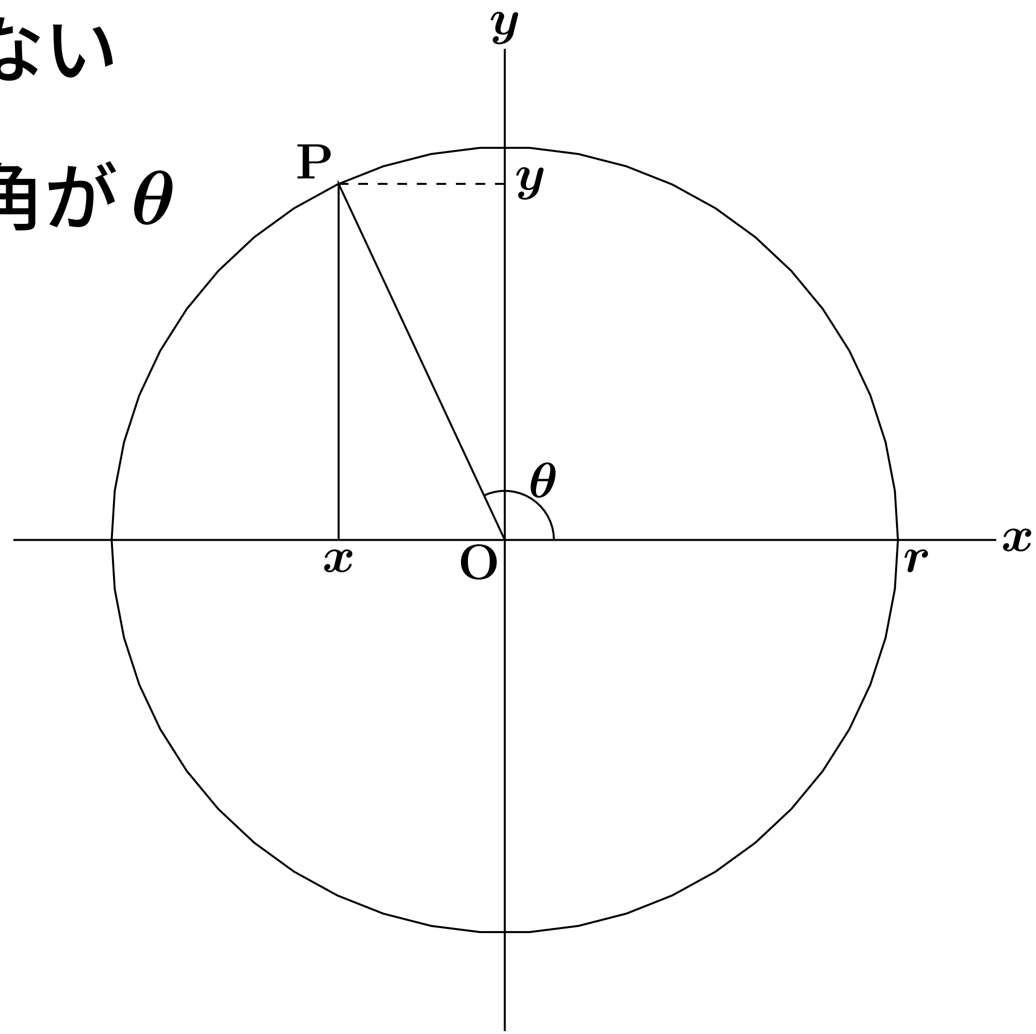
角が 90° より大きい場合

- 角 θ の直角三角形がかけない
- 半径 r の円上に x 軸との角が θ である点 P はとれる
- P の x 座標は底辺
  y 座標は高さに対応

$$\cos\theta = \frac{x}{r}$$

$$\sin\theta = \frac{y}{r}$$

$$\tan\theta = \frac{y}{x}$$



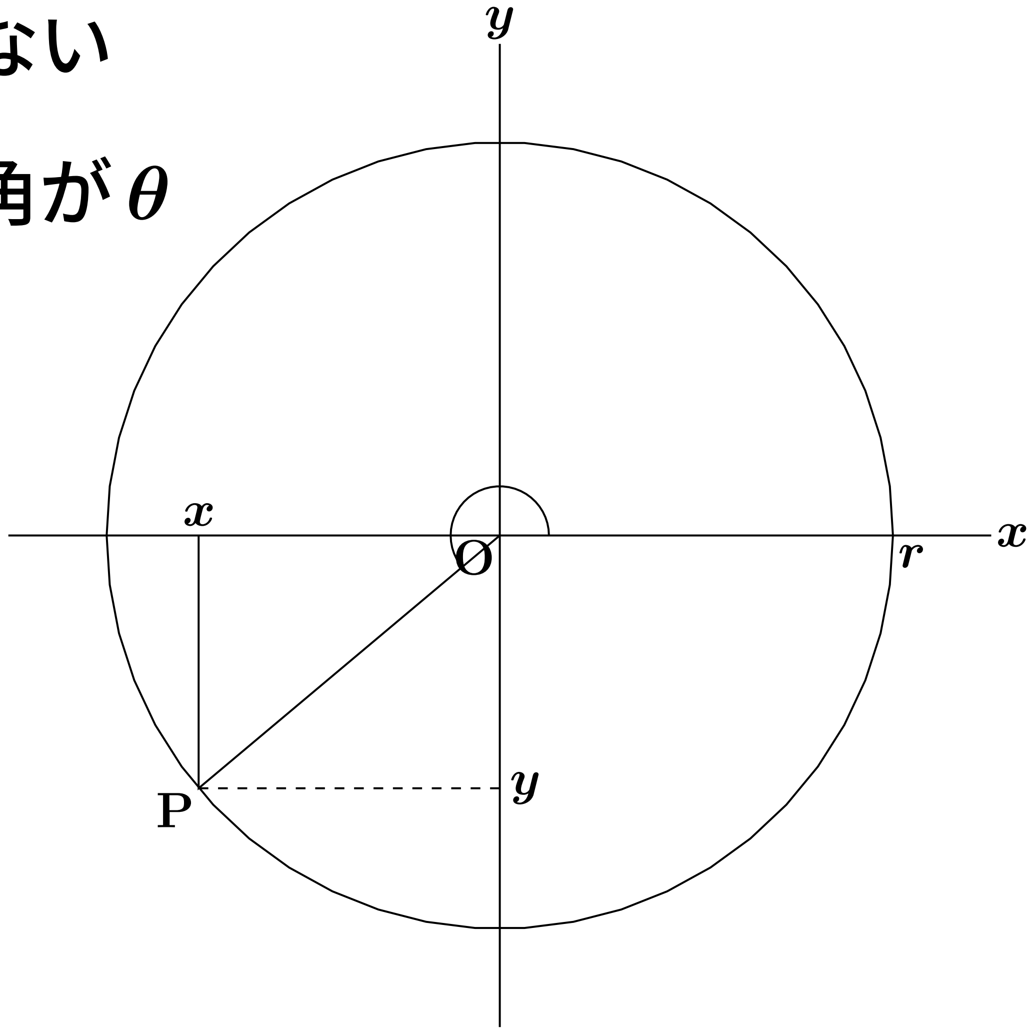
角が 90° より大きい場合

- 角 θ の直角三角形がかけない
- 半径 r の円上に x 軸との角が θ である点 P はとれる
- P の x 座標は底辺
  y 座標は高さに対応

$$\cos\theta = \frac{x}{r}$$

$$\sin\theta = \frac{y}{r}$$

$$\tan\theta = \frac{y}{x}$$



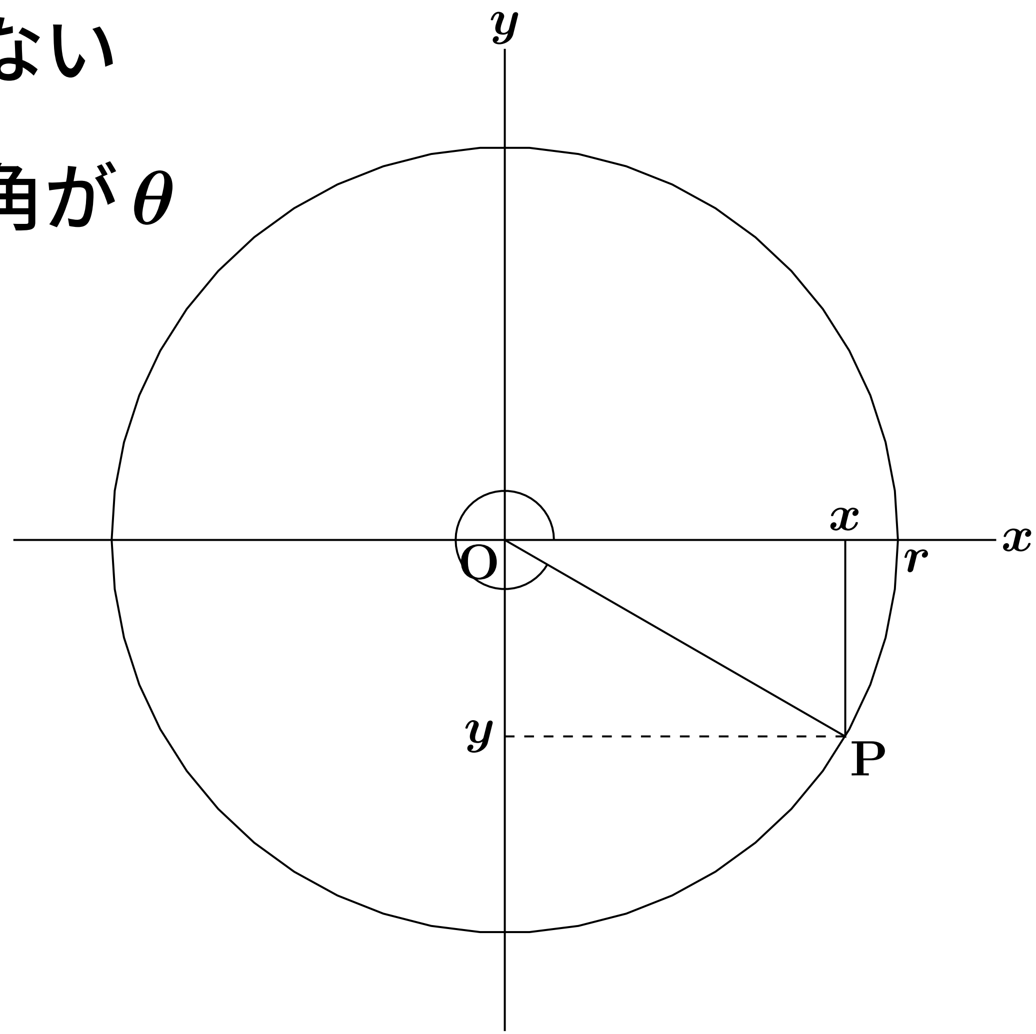
角が 90° より大きい場合

- 角 θ の直角三角形がかけない
- 半径 r の円上に x 軸との角が θ である点 P はとれる
- P の x 座標は底辺
  y 座標は高さに対応

$$\cos\theta = \frac{x}{r}$$

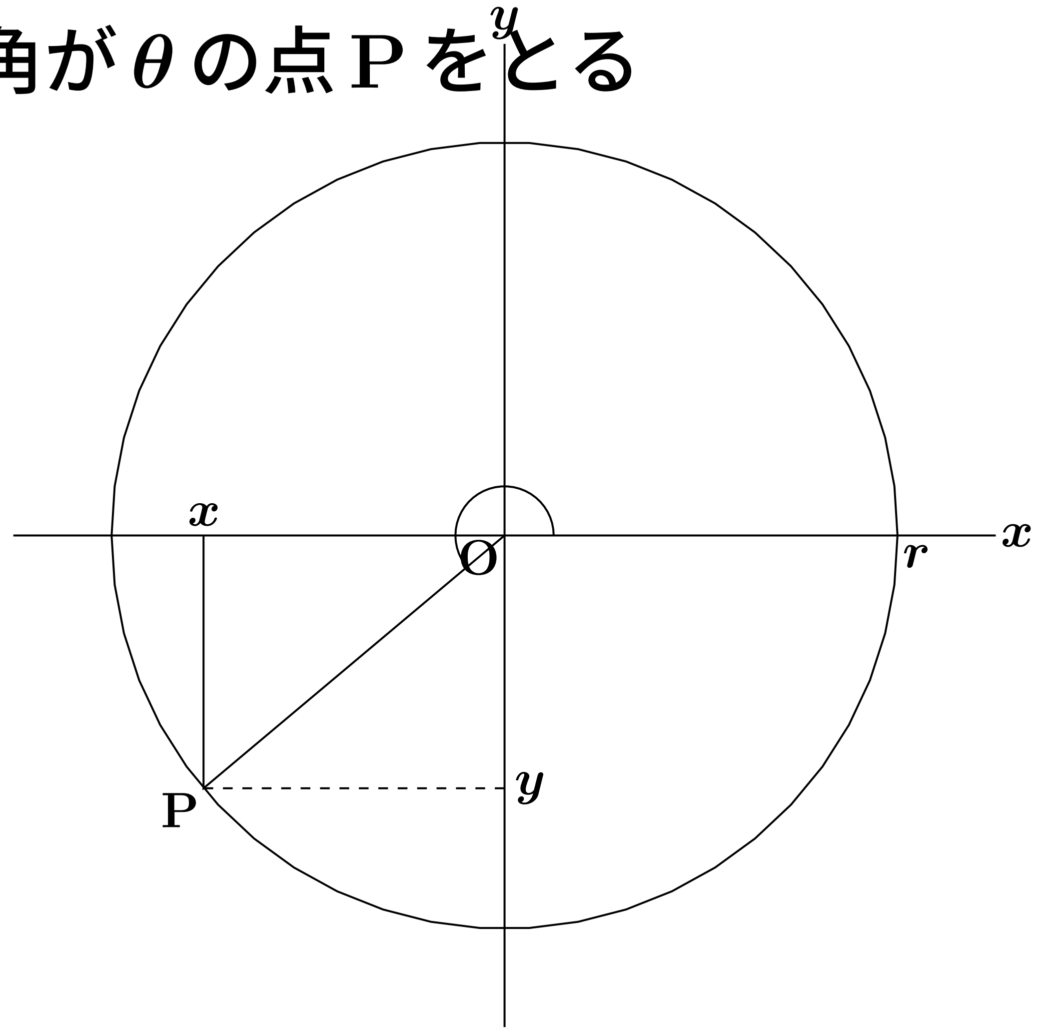
$$\sin\theta = \frac{y}{r}$$

$$\tan\theta = \frac{y}{x}$$



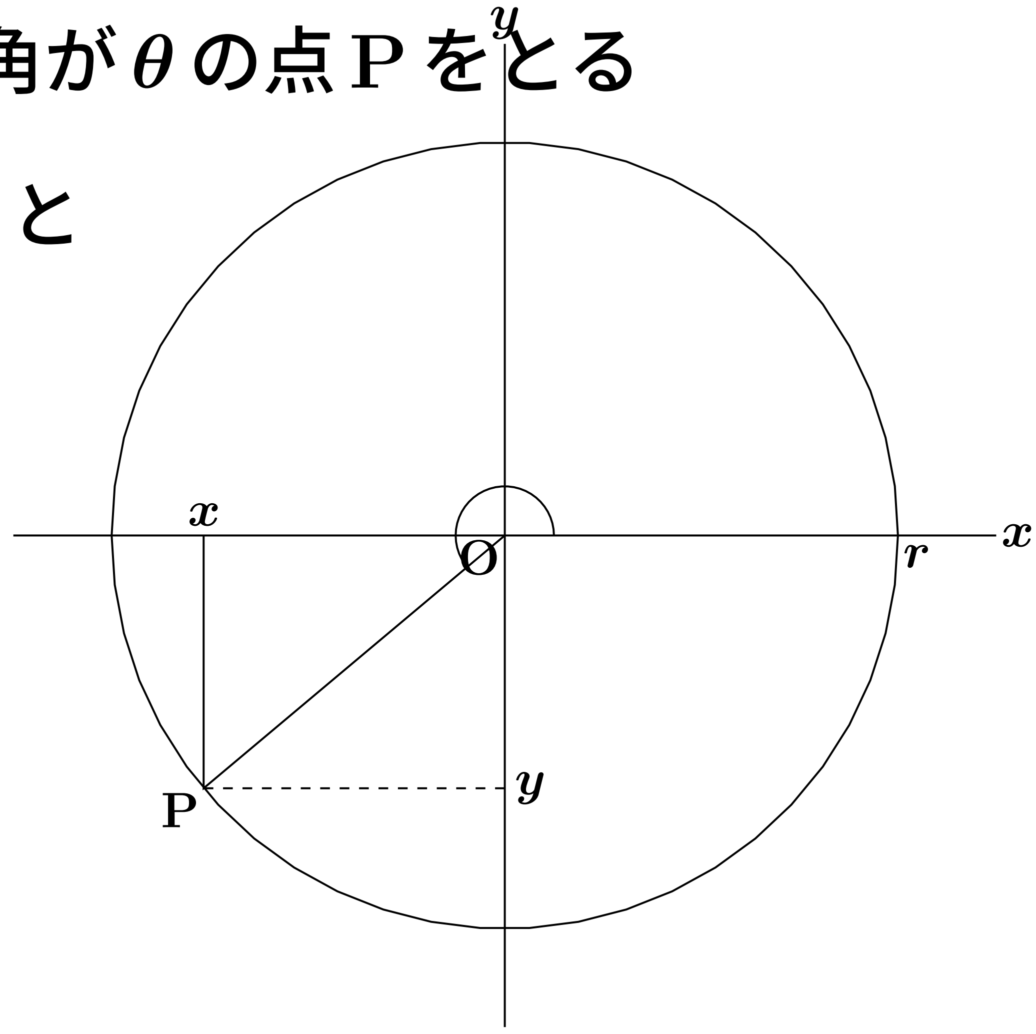
三角関数の定義 $(0 \leqq \theta \leqq 360)$

- 半径 r の円上に x 軸との角が θ の点 P をとる



三角関数の定義 $(0 \leqq \theta \leqq 360)$

- 半径 r の円上に x 軸との角が θ の点 P をとる
- P の座標を $(x,\ y)$ とすると



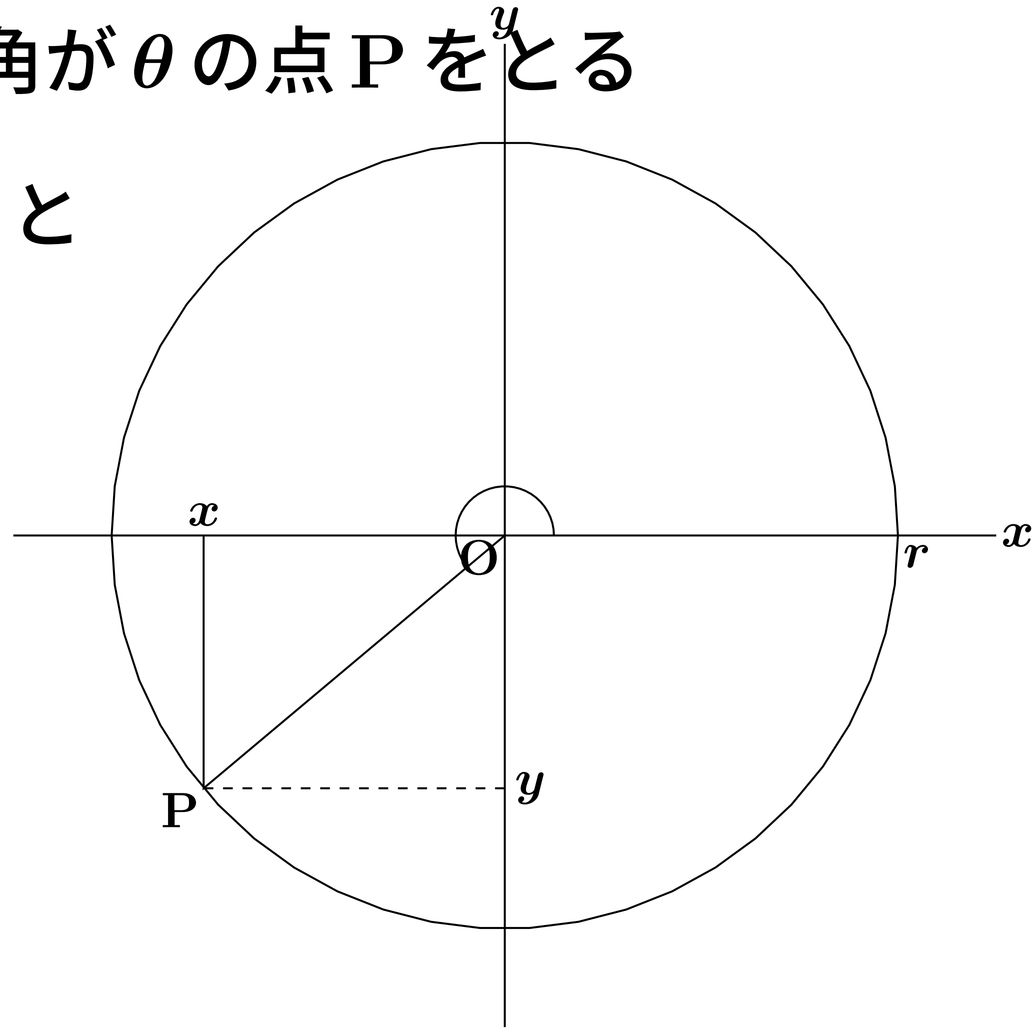
三角関数の定義 $(0 \leqq \theta \leqq 360)$

- 半径 r の円上に x 軸との角が θ の点 P をとる
- P の座標を $(x,\ y)$ とすると

$$\cos\theta = \frac{x}{r}$$

$$\sin\theta = \frac{y}{r}$$

$$\tan\theta = \frac{y}{x}$$



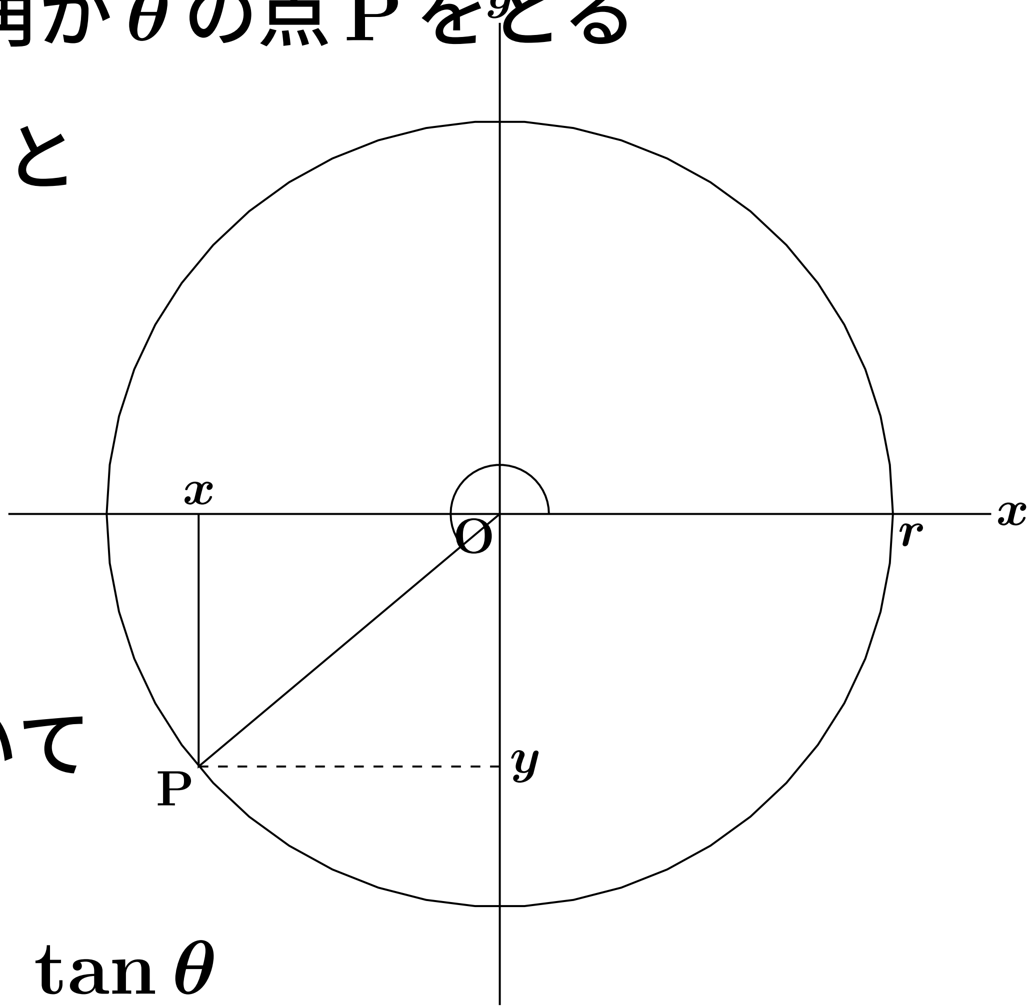
三角関数の定義 ($0 \leqq \theta \leqq 360$)

- 半径 r の円上に x 軸との角が θ の点 P をとる
- P の座標を $(x,\ y)$ とすると

$$\cos\theta = \frac{x}{r}$$

$$\sin\theta = \frac{y}{r}$$

$$\tan\theta = \frac{y}{x}$$



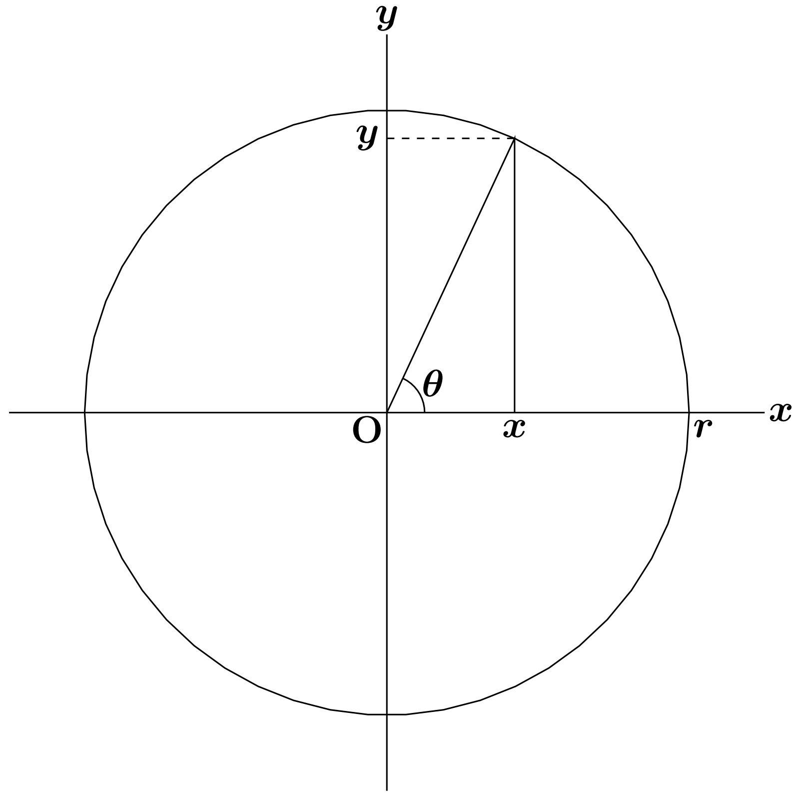
課題 0509-2 問題図の θ について以下を求めよ

[1] $\cos\theta$　[2] $\sin\theta$　[3] $\tan\theta$

三角関数の値の符号

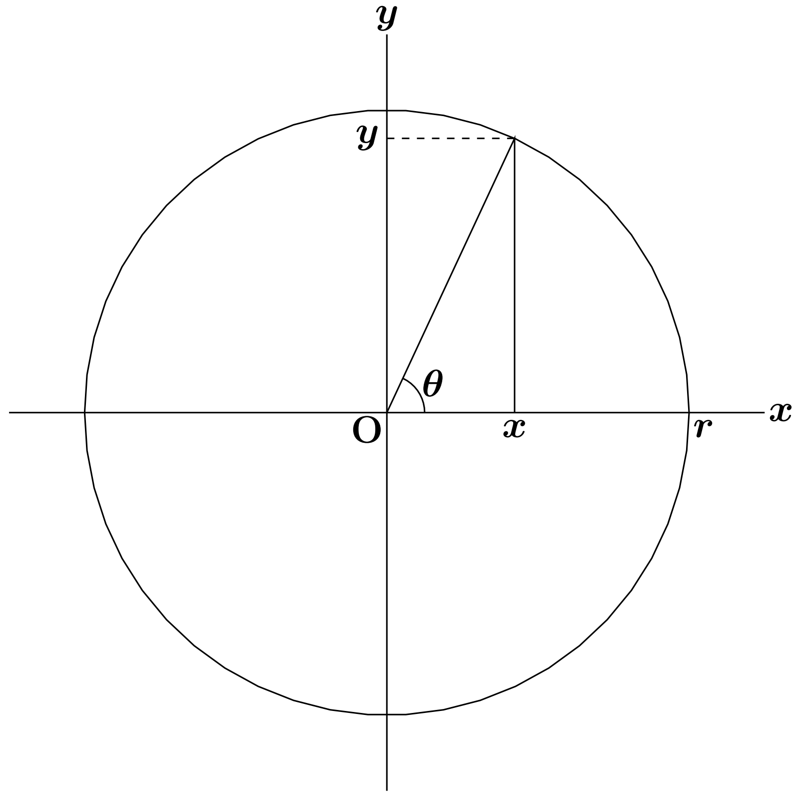
$$\cos\theta \quad \sin\theta \quad \tan\theta$$

- 第１象限



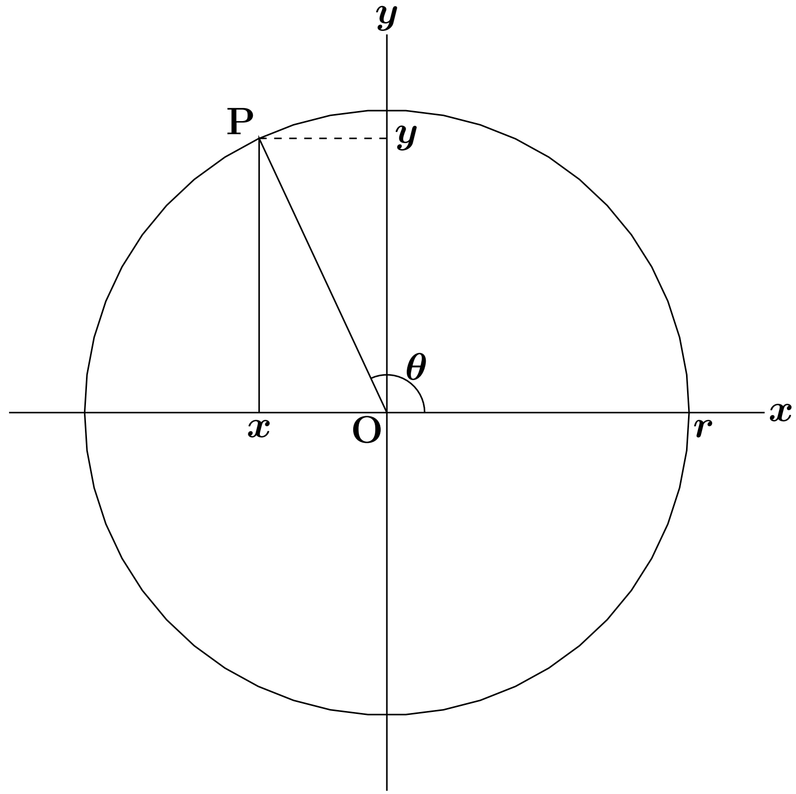
三角関数の値の符号

	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第１象限	$+$	$+$	$+$



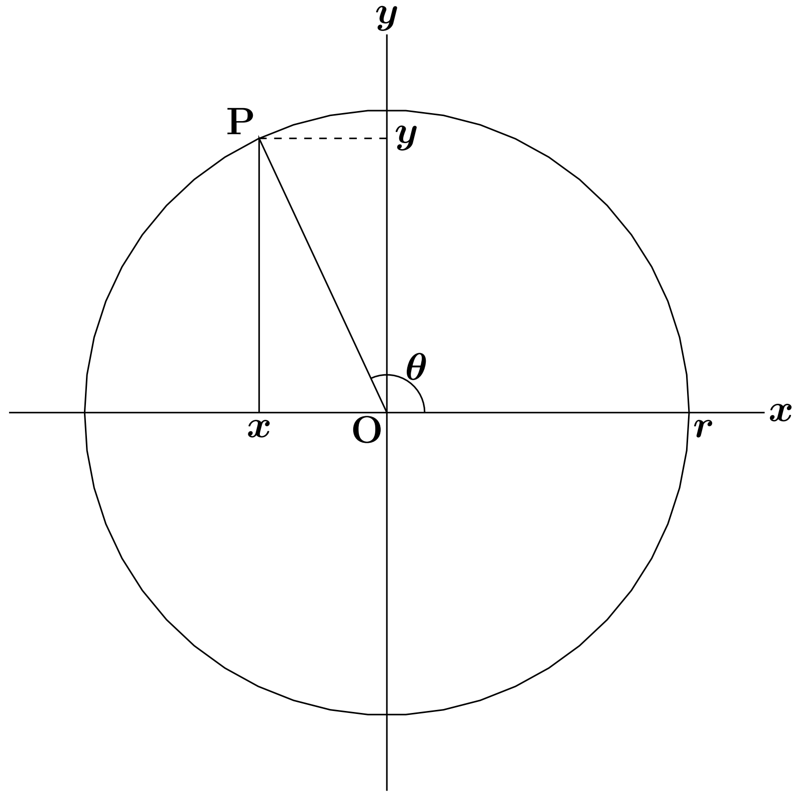
三角関数の値の符号

	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第 1 象限	$+$	$+$	$+$
• 第 2 象限			



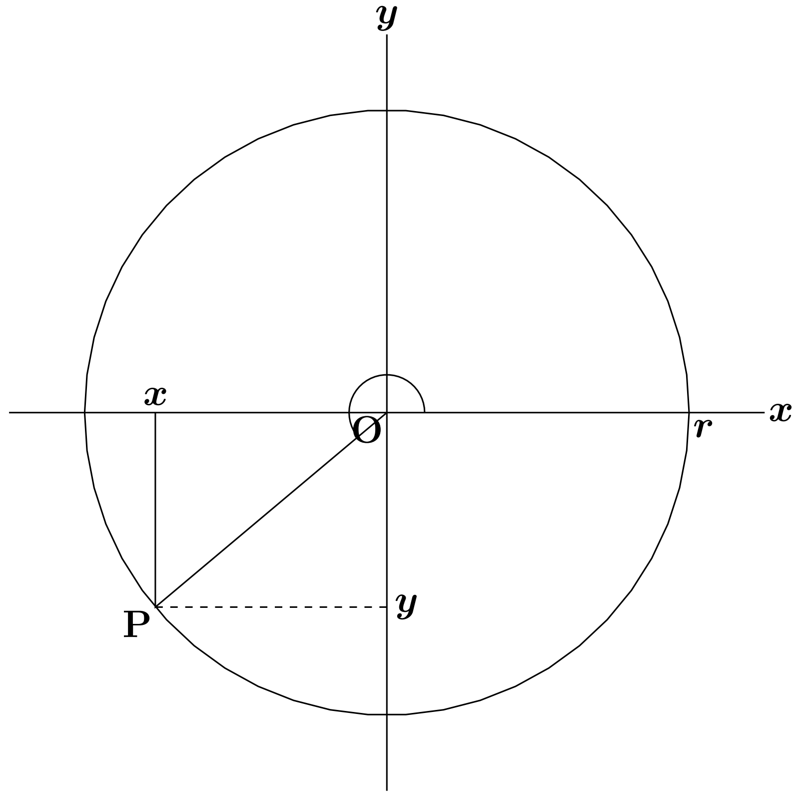
三角関数の値の符号

	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第 1 象限	$+$	$+$	$+$
• 第 2 象限	$-$	$+$	$-$



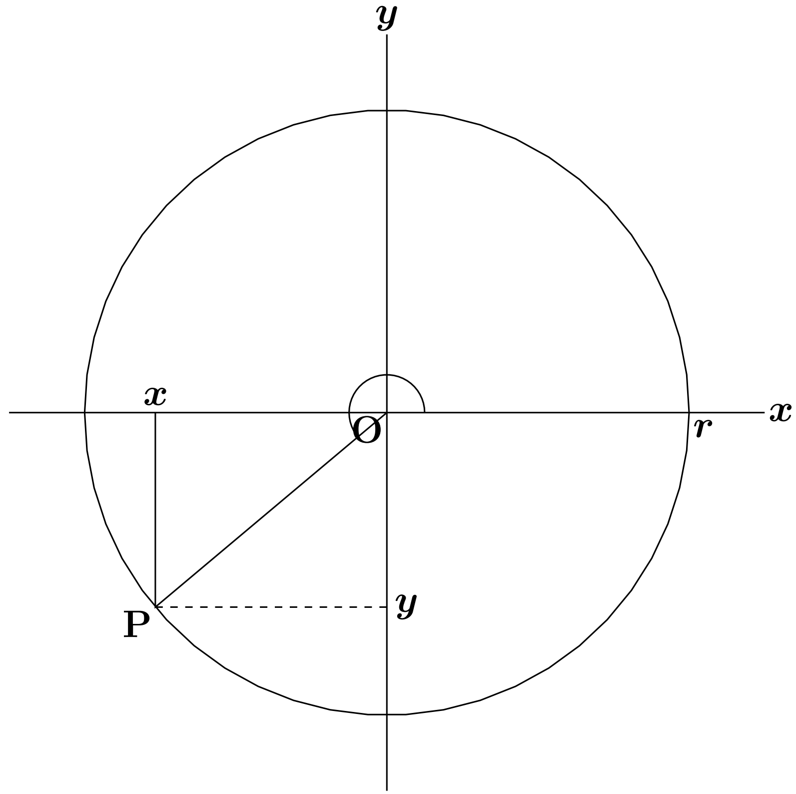
三角関数の値の符号

	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第 1 象限	$+$	$+$	$+$
• 第 2 象限	$-$	$+$	$-$
• 第 3 象限			



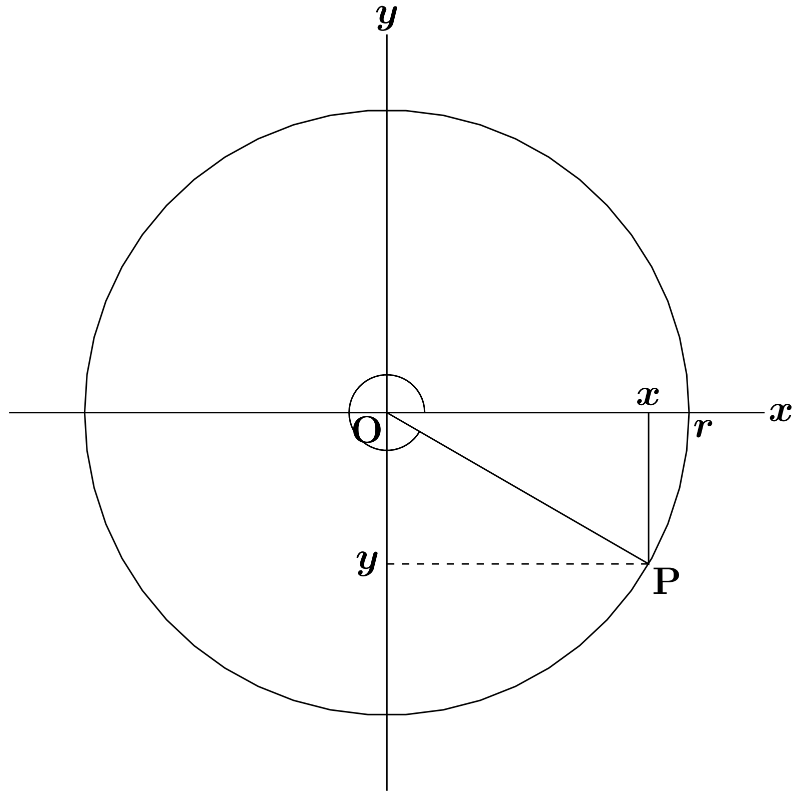
三角関数の値の符号

	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第 1 象限	$+$	$+$	$+$
• 第 2 象限	$-$	$+$	$-$
• 第 3 象限	$-$	$-$	$+$



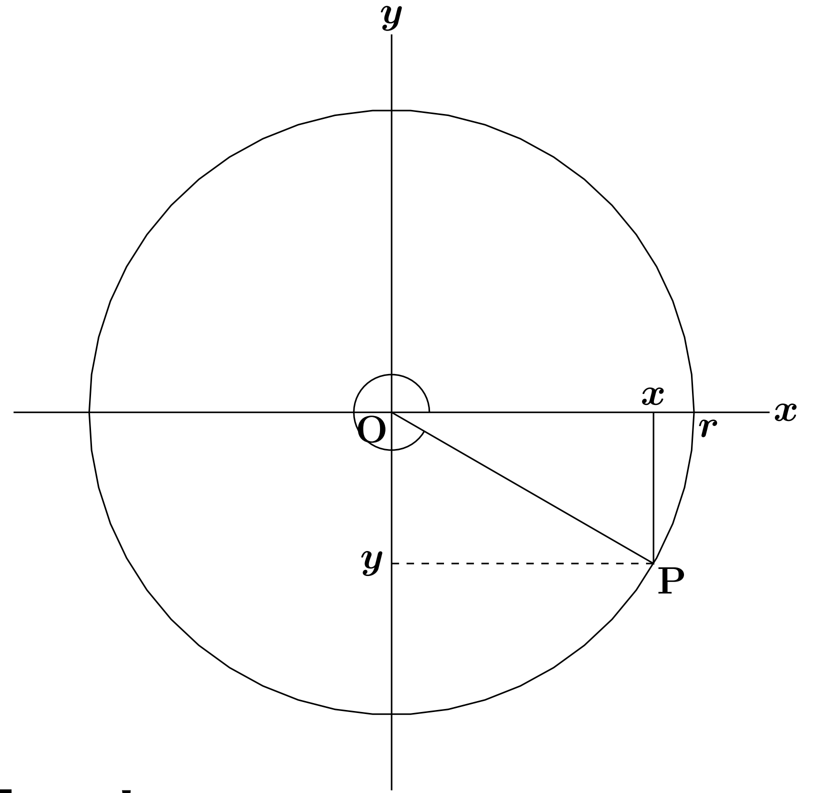
三角関数の値の符号

	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第 1 象限	$+$	$+$	$+$
• 第 2 象限	$-$	$+$	$-$
• 第 3 象限	$-$	$-$	$+$
• 第 4 象限			



三角関数の値の符号

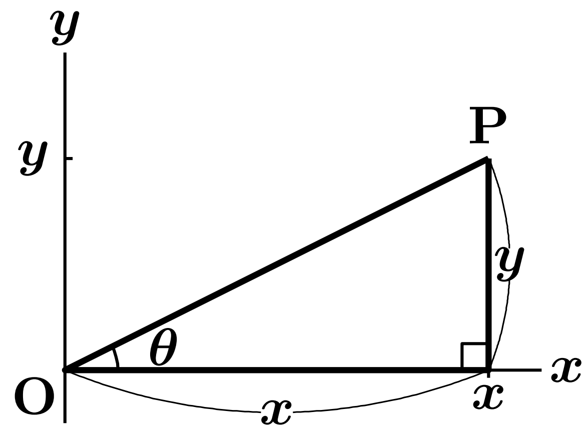
	$\cos\theta$	$\sin\theta$	$\tan\theta$
• 第 1 象限	$+$	$+$	$+$
• 第 2 象限	$-$	$+$	$-$
• 第 3 象限	$-$	$-$	$+$
• 第 4 象限			



課題 0509-3 第 4 象限での符号を調べよ

三角関数の相互関係

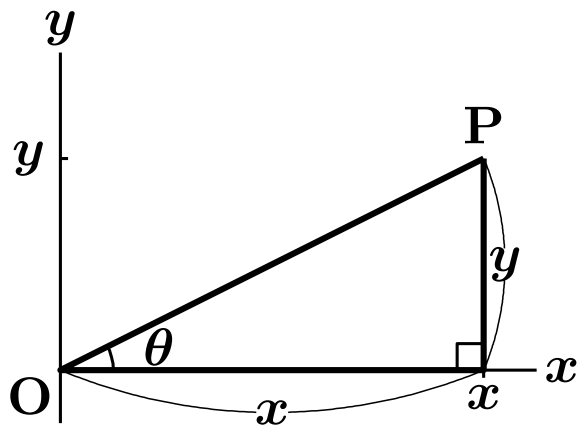
(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$



三角関数の相互関係

(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

以下の証明では $\mathrm{OP} = r$ とおく

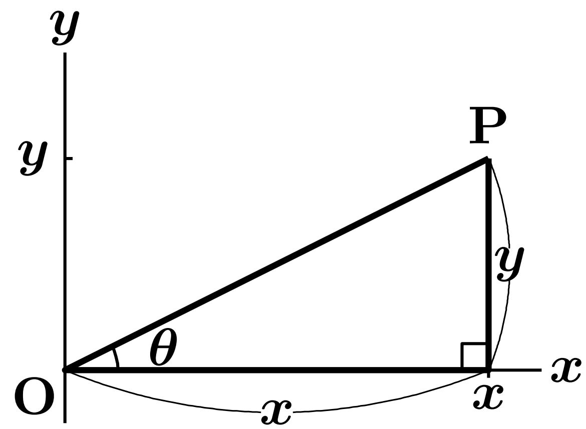


証) $\tan\theta = \dfrac{y}{x} = \dfrac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}}$

三角関数の相互関係

(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

以下の証明では $\mathrm{OP} = r$ とおく

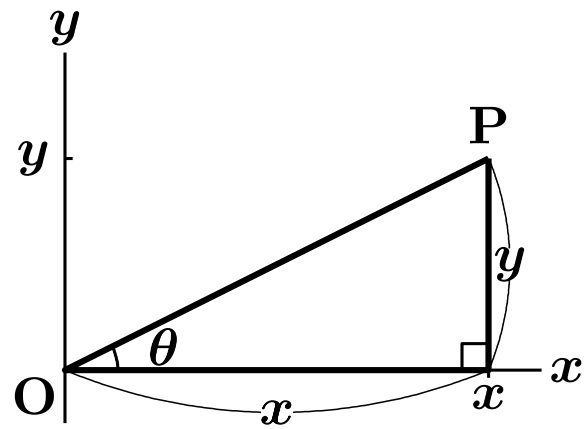


証) $\tan\theta = \dfrac{y}{x} = \dfrac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

三角関数の相互関係

(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

以下の証明では $\mathrm{OP} = r$ とおく



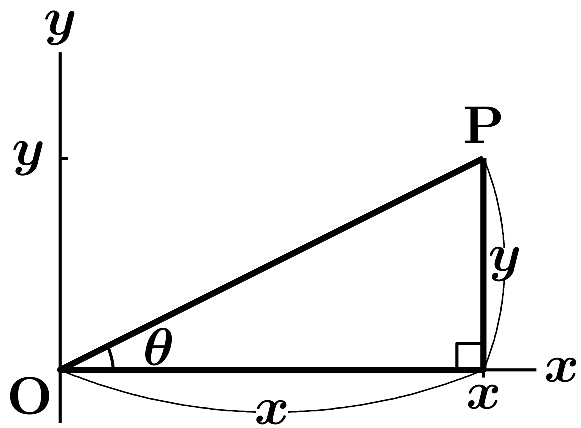
証) $\tan\theta = \dfrac{y}{x} = \dfrac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

(2) $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$

三角関数の相互関係

(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

以下の証明では $\mathrm{OP} = r$ とおく



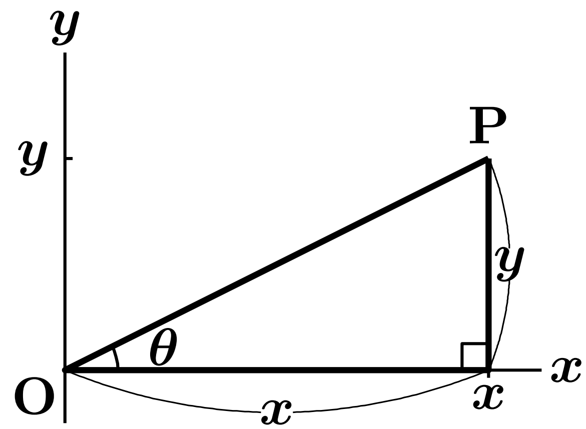
証) $\tan\theta = \dfrac{y}{x} = \dfrac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

(2) $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$ $\quad$ $\big(\cos(\theta)\big)^2$ を $\cos^2\theta$ と書く

三角関数の相互関係

(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

以下の証明では $\mathrm{OP} = r$ とおく



証) $\tan\theta = \dfrac{y}{x} = \dfrac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

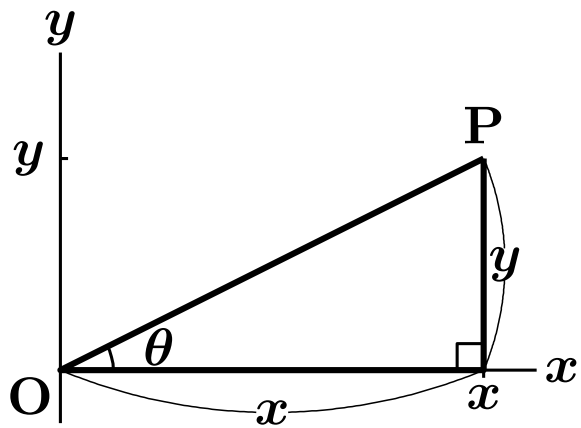
(2) $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$ $\quad$ $\left(\cos(\theta)\right)^2$ を $\cos^2\theta$ と書く

証) $\cos^2\theta + \sin^2\theta = \dfrac{x^2}{r^2} + \dfrac{y^2}{r^2}$

三角関数の相互関係

(1) $\tan\theta = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

以下の証明では $\mathrm{OP} = r$ とおく



証) $\tan\theta = \dfrac{y}{x} = \dfrac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \dfrac{\sin\theta}{\cos\theta}$

(2) $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$ $\quad$ $\big(\cos(\theta)\big)^2$ を $\cos^2\theta$ と書く

証) $\cos^2\theta + \sin^2\theta = \dfrac{x^2}{r^2} + \dfrac{y^2}{r^2} = \dfrac{x^2+y^2}{r^2} = 1$

一般角

一般角

- これまで，角 θ は 2 つの線分の間の角だった

$$0^\circ \leqq \theta \leqq 360^\circ$$

一般角

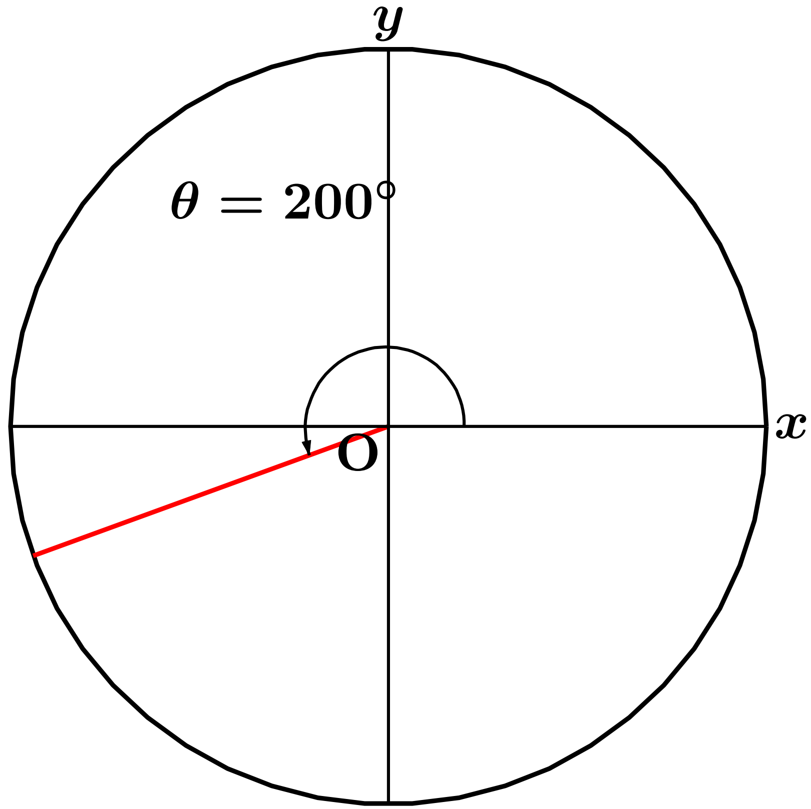
- これまで，角 θ は 2 つの線分の間の角だった

$$0^\circ \leqq \theta \leqq 360^\circ$$

- 角を回転を表す量とすると
  θ はどんな実数でもよい．

  · x 軸を始線とする

  · $\theta > 0^\circ$ のとき，反時計回り



一般角

- これまで，角 θ は 2 つの線分の間の角だった

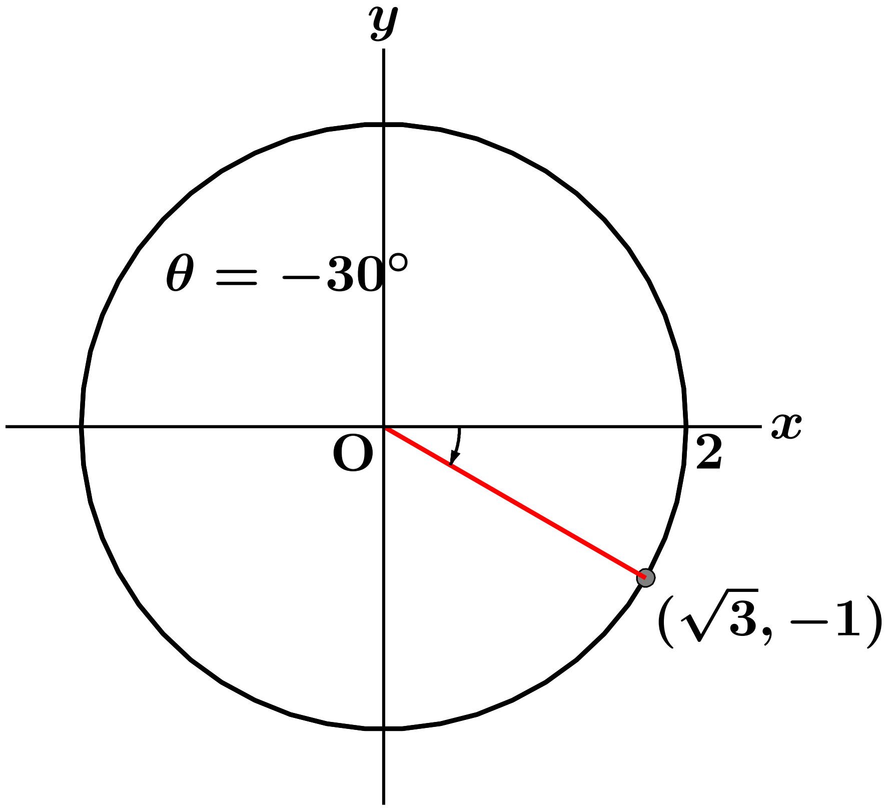
$$0^\circ \leqq \theta \leqq 360^\circ$$

- 角を回転を表す量とすると
  θ はどんな実数でもよい．

  · x 軸を始線とする

  · $\theta > 0^\circ$ のとき，反時計回り

  · $\theta < 0^\circ$ のとき，時計回り



一般角

アプリ「一般角」で一般角を見てみよう

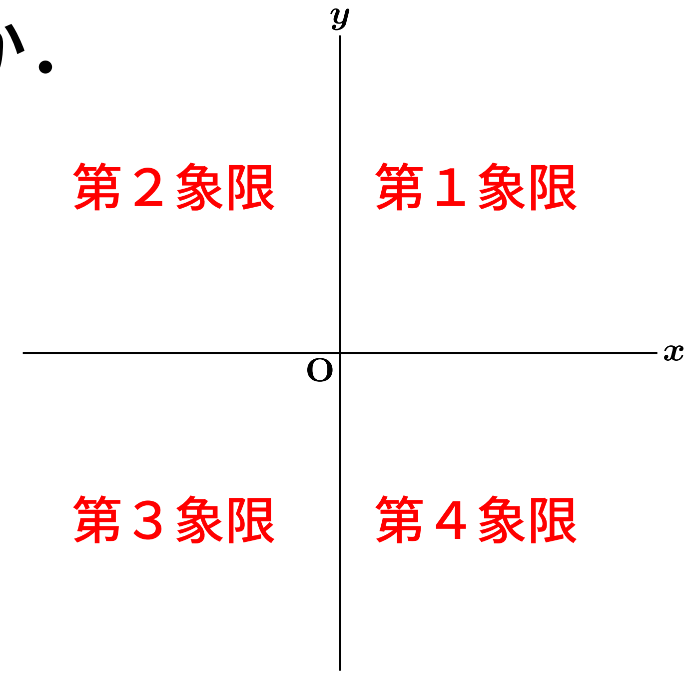
一般角

アプリ「一般角」で一般角を見てみよう

課題 0509-4 次の角は第何象限にあるか．

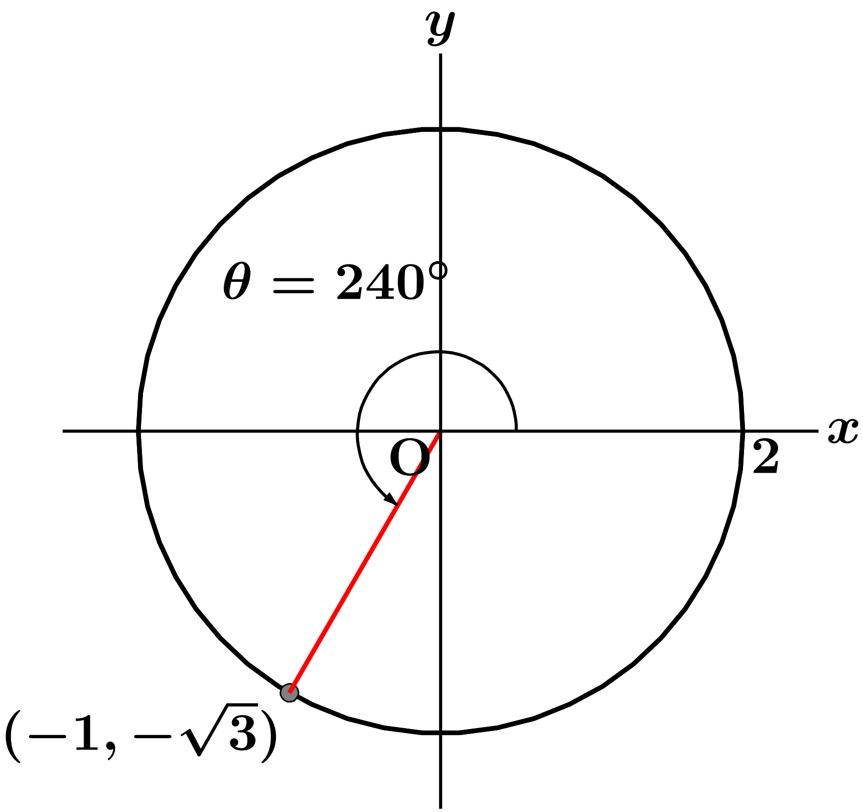
[1] $400°$　　[2] $600°$

[3] $-550°$　　[4] $-750°$



一般角の三角関数

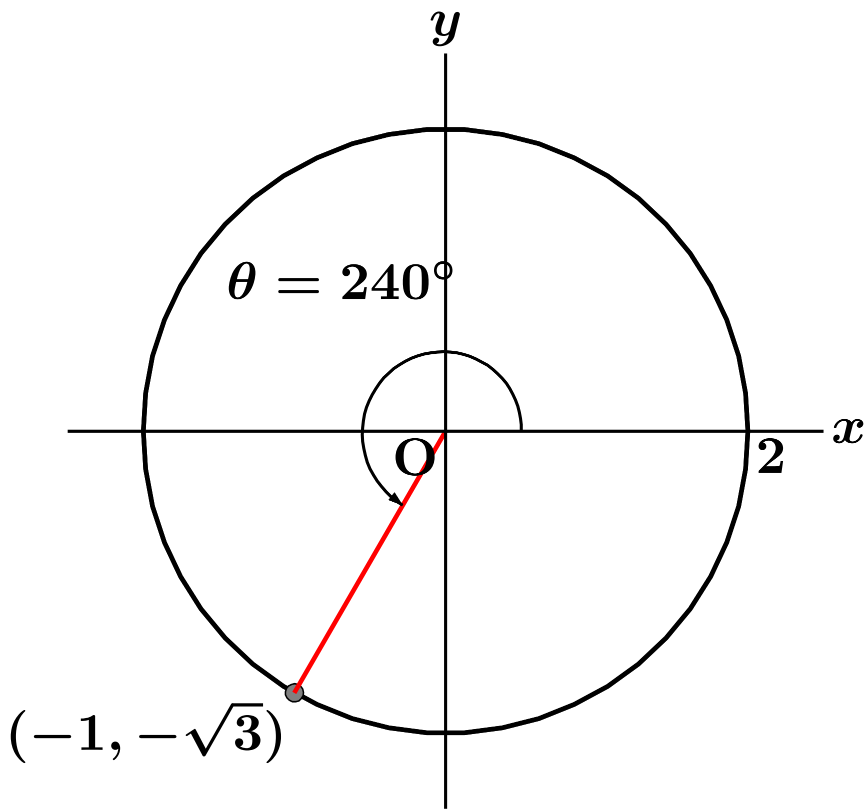
- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)



一般角の三角関数

- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

例 $\theta = 240^\circ$

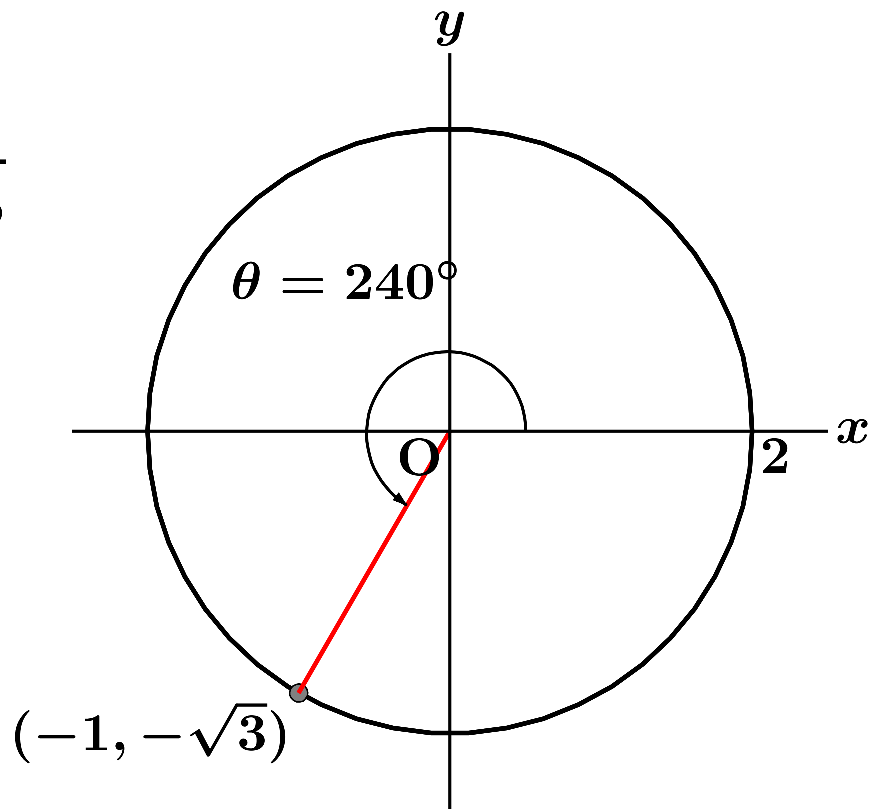


一般角の三角関数

- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

例 $\theta = 240^\circ$

$r = 2, x = -1,\ y = -\sqrt{3}$



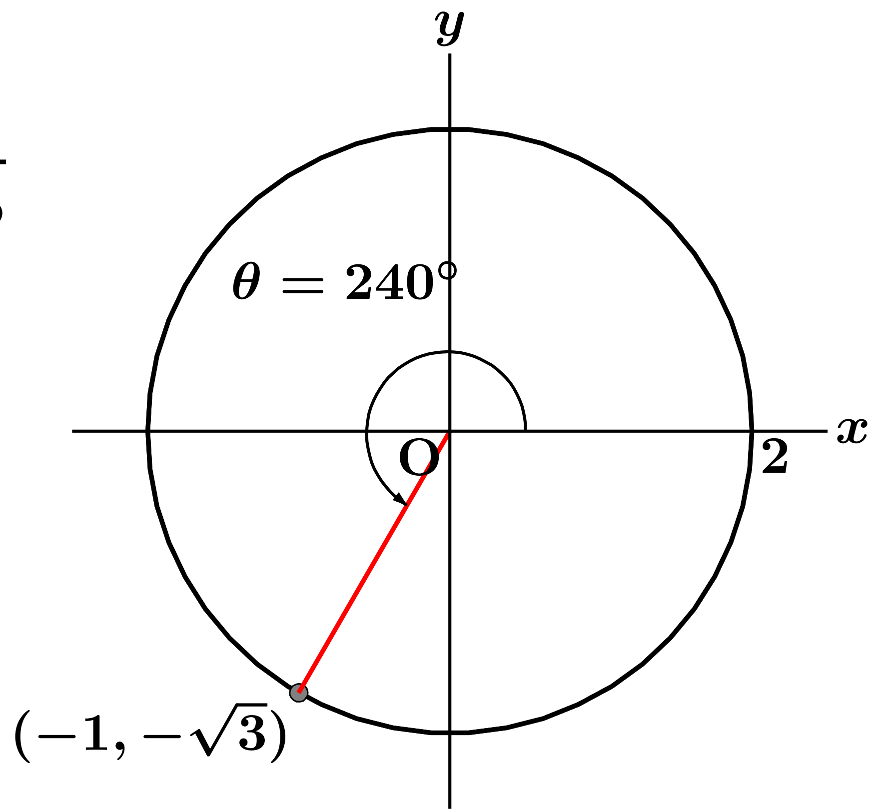
一般角の三角関数

- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

例 $\theta = 240^\circ$

$r = 2, x = -1,\ y = -\sqrt{3}$

$\cos\theta =$



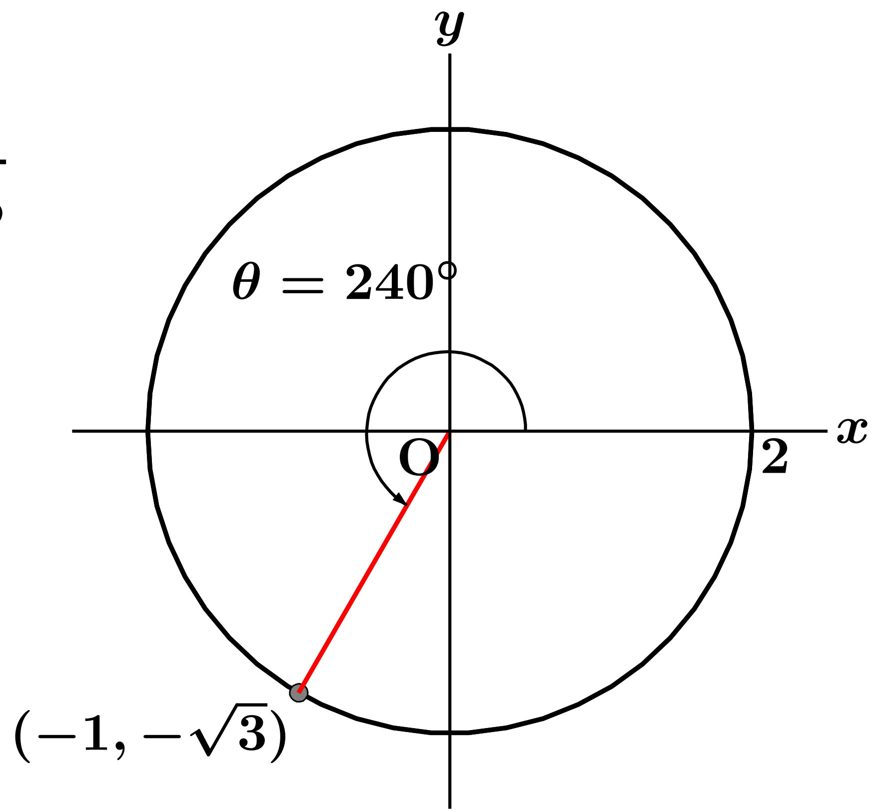
一般角の三角関数

- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

例 $\theta = 240^\circ$

$$r = 2, x = -1,\ y = -\sqrt{3}$$

$$\cos\theta = -\frac{1}{2}$$



一般角の三角関数

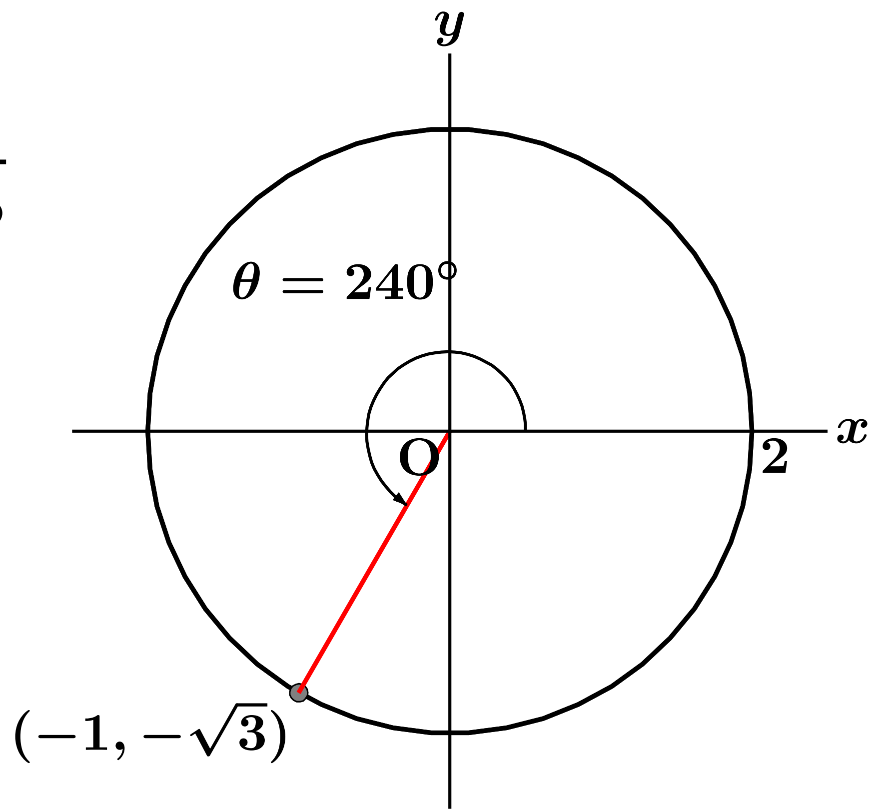
- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

例 $\theta = 240^\circ$

$r = 2, x = -1,\ y = -\sqrt{3}$

$$\cos\theta = -\frac{1}{2}$$

$$\sin\theta =$$



一般角の三角関数

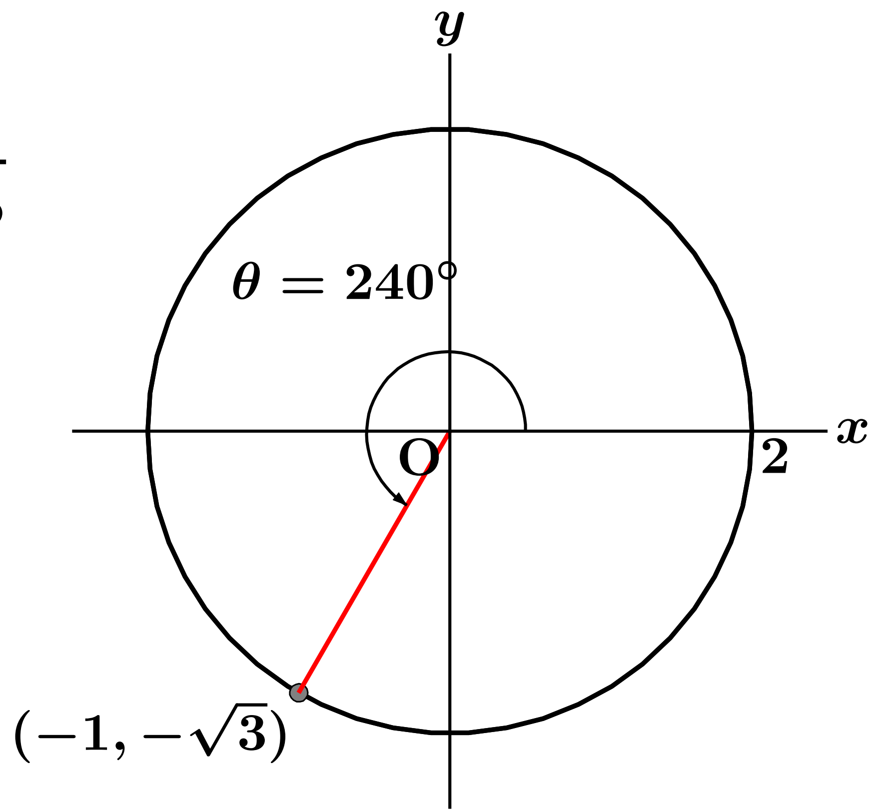
- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

例 $\theta = 240^\circ$

$$r = 2, x = -1,\ y = -\sqrt{3}$$

$$\cos\theta = -\frac{1}{2}$$

$$\sin\theta = -\frac{\sqrt{3}}{2}$$



一般角の三角関数

- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

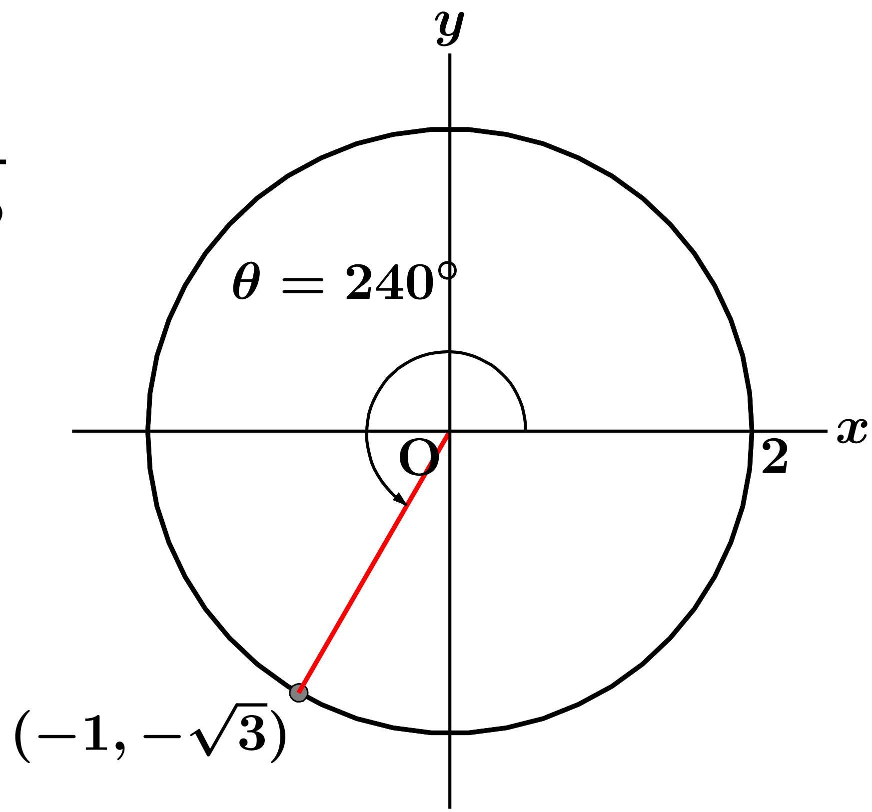
例 $\theta = 240^\circ$

$$r = 2, x = -1,\ \ y = -\sqrt{3}$$

$$\cos\theta = -\frac{1}{2}$$

$$\sin\theta = -\frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\tan\theta =$$



一般角の三角関数

- 座標を使う (鈍角の場合と同じ)

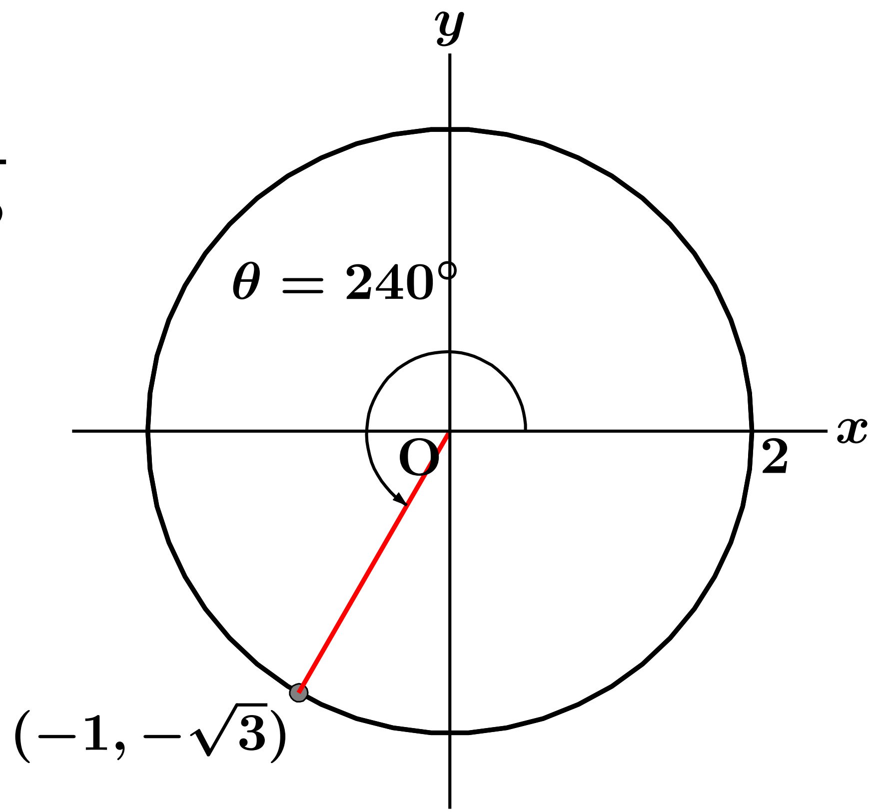
例 $\theta = 240^\circ$

$$r = 2, x = -1,\ \ y = -\sqrt{3}$$

$$\cos\theta = -\frac{1}{2}$$

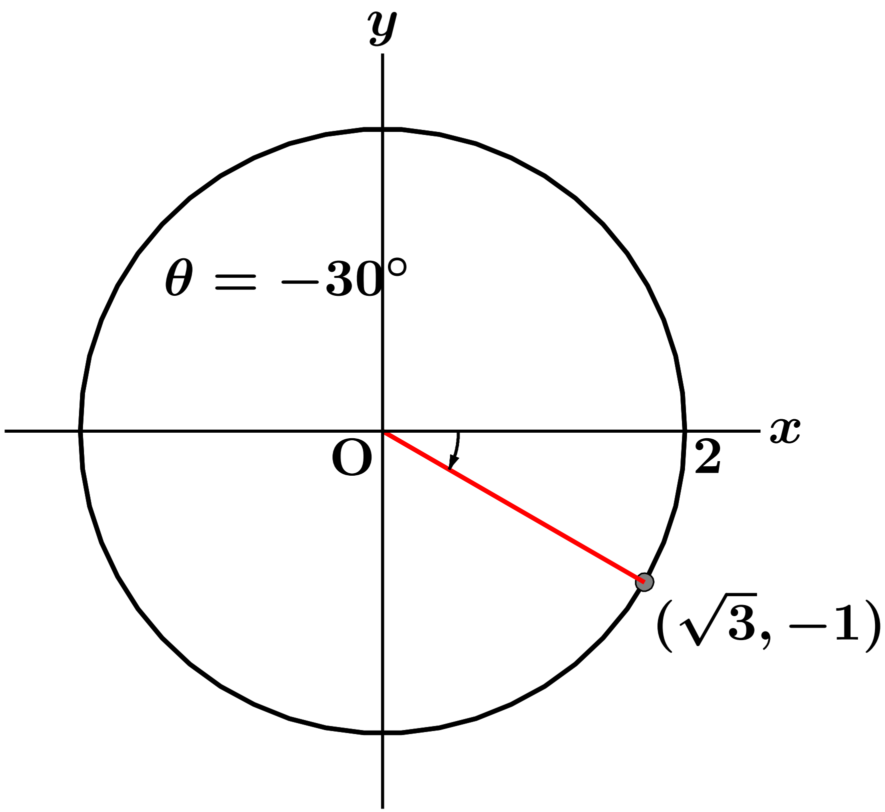
$$\sin\theta = -\frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\tan\theta = \sqrt{3}$$



一般角の三角関数

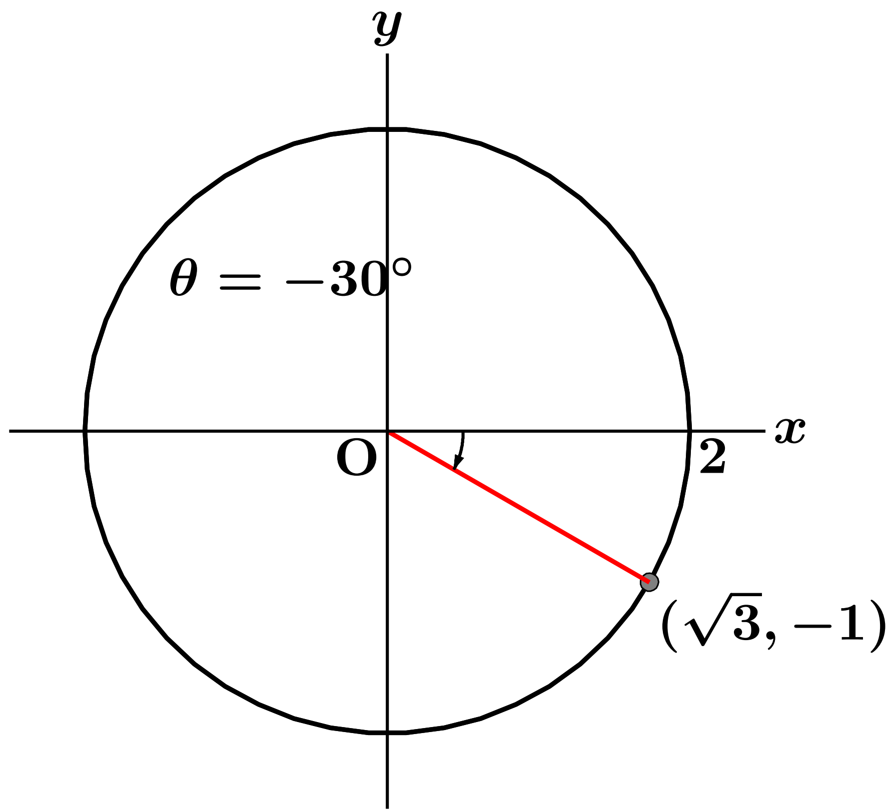
例 $\theta = -30^\circ$



一般角の三角関数

例 $\theta = -30^\circ$

$r = 2, x = \sqrt{3},\ y = -1$

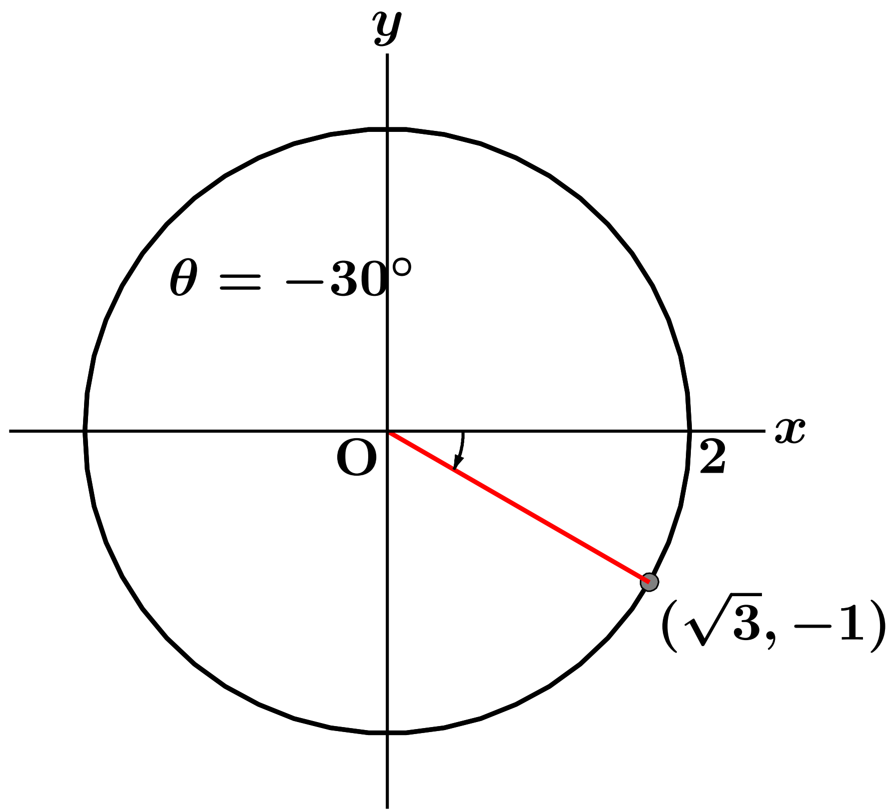


一般角の三角関数

例 $\theta = -30^\circ$

$r = 2, x = \sqrt{3},\ y = -1$

$\cos\theta =$

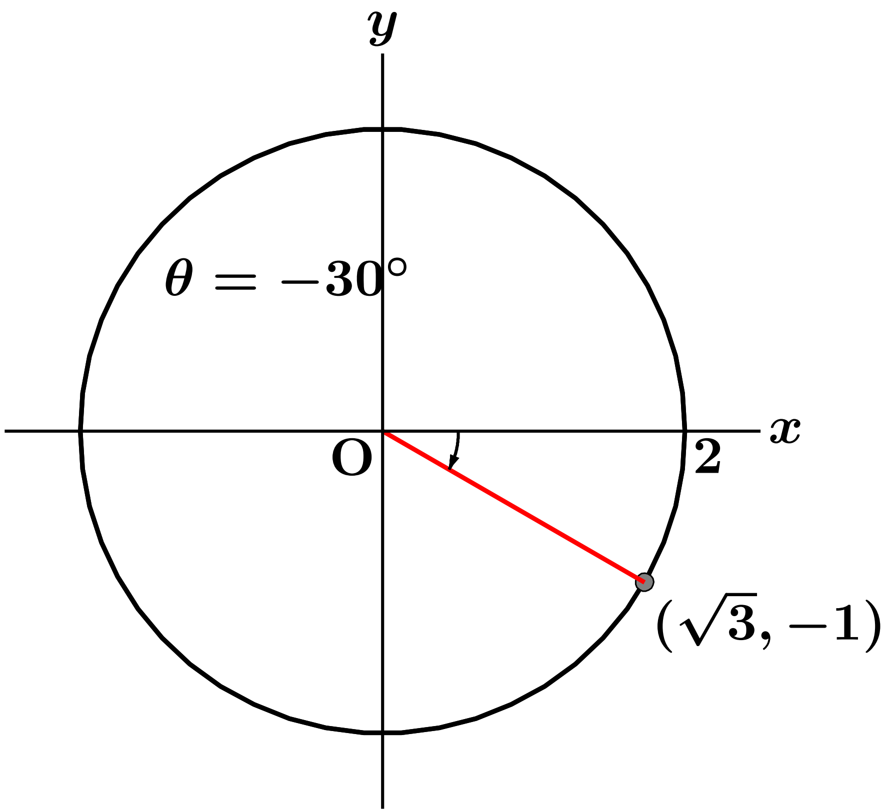


一般角の三角関数

例 $\theta = -30^\circ$

$$r = 2, x = \sqrt{3},\ \ y = -1$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$$



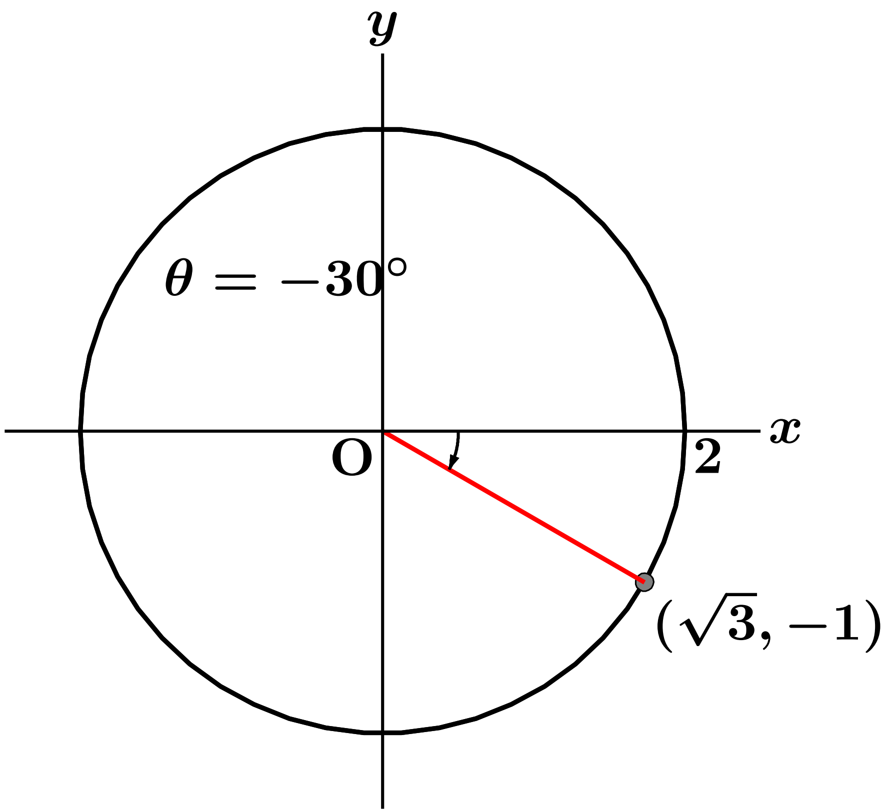
一般角の三角関数

例 $\theta = -30°$

$$r = 2, x = \sqrt{3},\ \ y = -1$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\sin\theta =$$



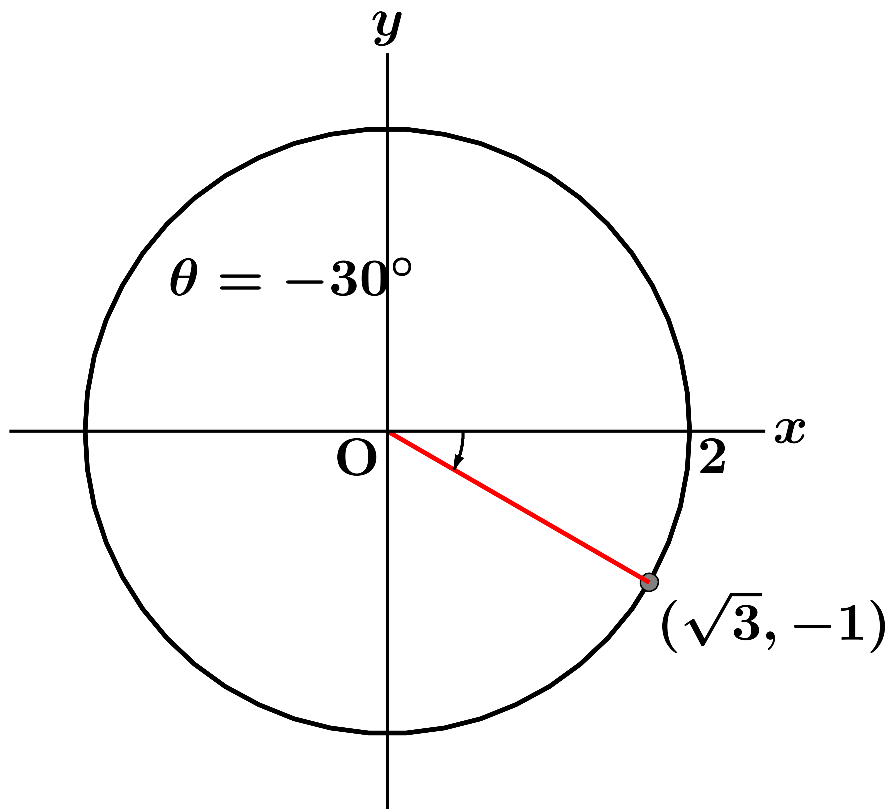
一般角の三角関数

例 $\theta = -30^\circ$

$$r = 2, x = \sqrt{3},\ \ y = -1$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\sin\theta = -\frac{1}{2}$$



一般角の三角関数

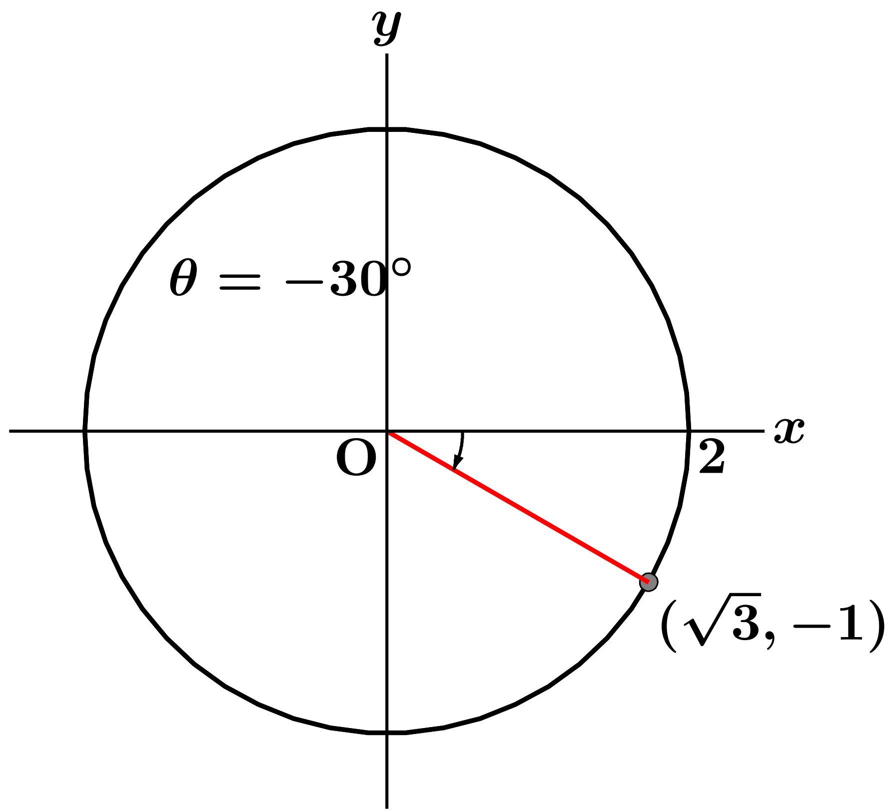
例 $\theta = -30^\circ$

$$r = 2, x = \sqrt{3},\ \ y = -1$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\sin\theta = -\frac{1}{2}$$

$$\tan\theta =$$



一般角の三角関数

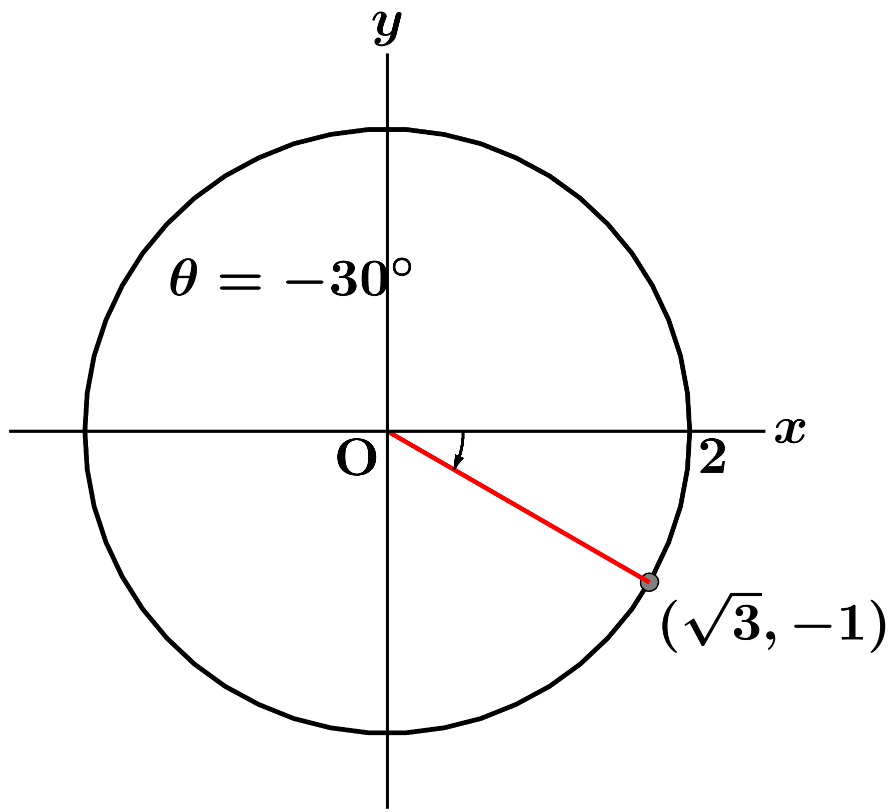
例 $\theta = -30^\circ$

$$r = 2, x = \sqrt{3},\ \ y = -1$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\sin\theta = -\frac{1}{2}$$

$$\tan\theta = -\frac{1}{\sqrt{3}}$$



一般角の三角関数

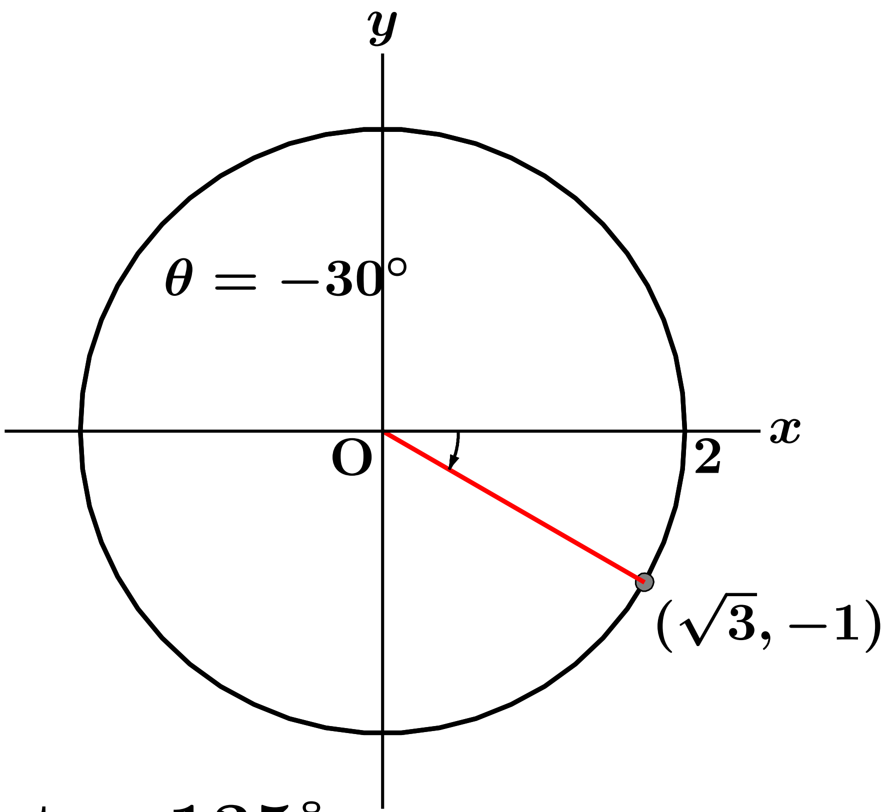
例 $\theta = -30^\circ$

$$r = 2, x = \sqrt{3},\ \ y = -1$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\sin\theta = -\frac{1}{2}$$

$$\tan\theta = -\frac{1}{\sqrt{3}}$$



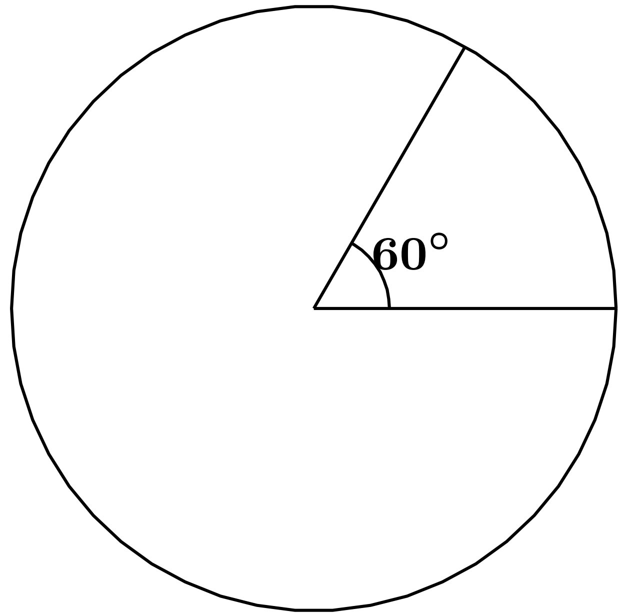
課題 0509-5 次を求めよ

[1] $\cos 135^\circ$ [2] $\sin 135^\circ$ [3] $\tan 135^\circ$

弧度法（radian）

角度の測り方１

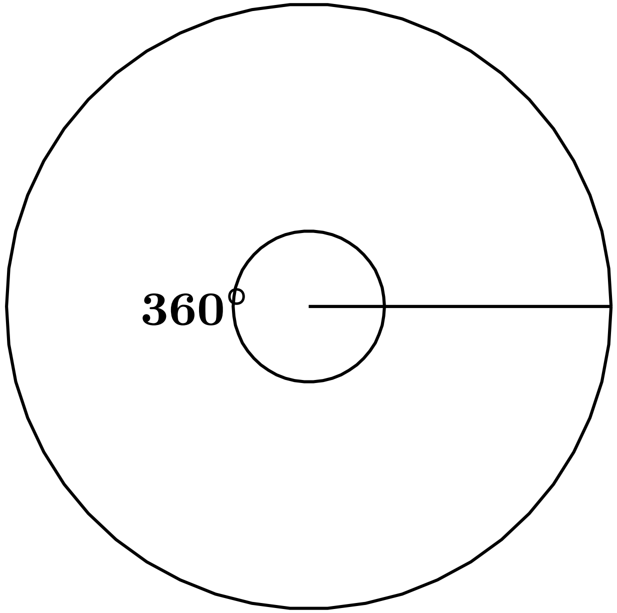
度　°



角度の測り方１

度　°

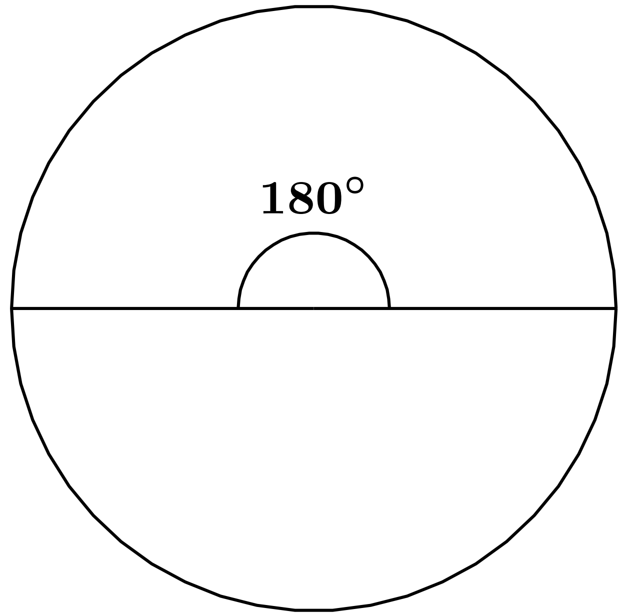
- １周を 360° とする



角度の測り方１

度　°

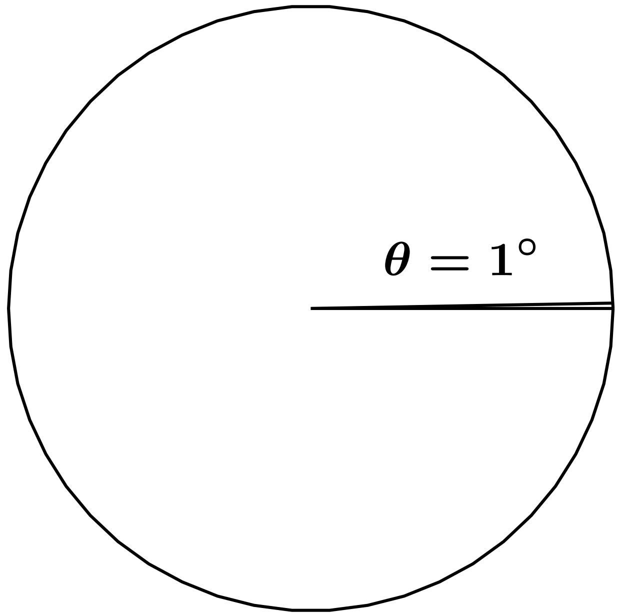
- １周を $360°$ とする
- 半周は $180°$ とする



角度の測り方１

度　°

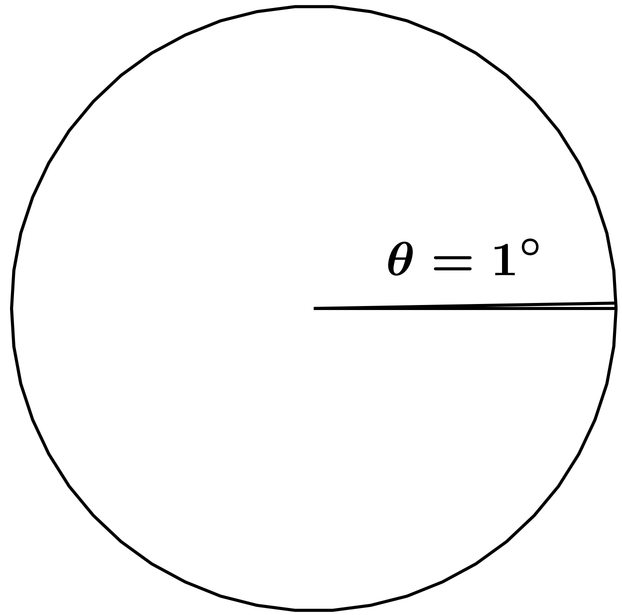
- １周を 360° とする
- 半周は 180° とする
- 一周の $\dfrac{1}{360}$ を 1° とする



角度の測り方１

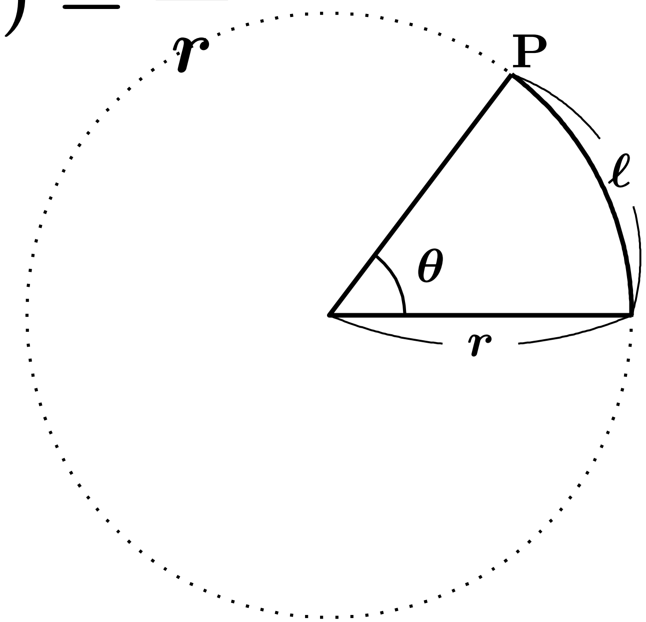
度　°

- １周を 360° とする
- 半周は 180° とする
- 一周の $\dfrac{1}{360}$ を 1° とする
- 数学的な意味は余りない
- 日常的には使いやすい



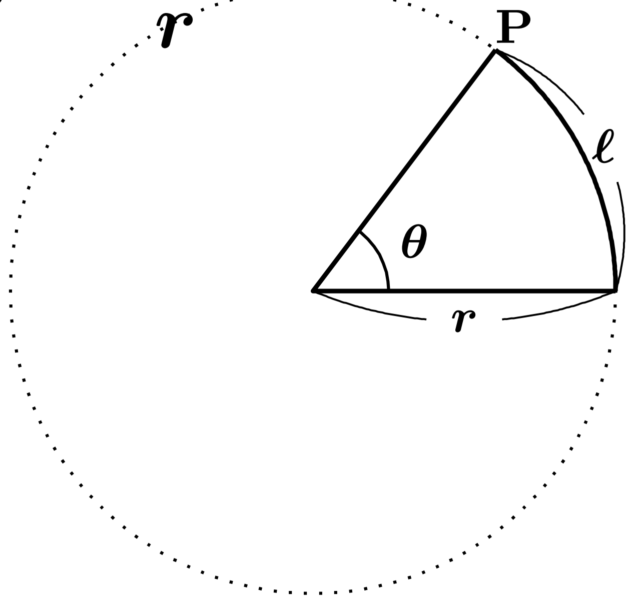
角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$



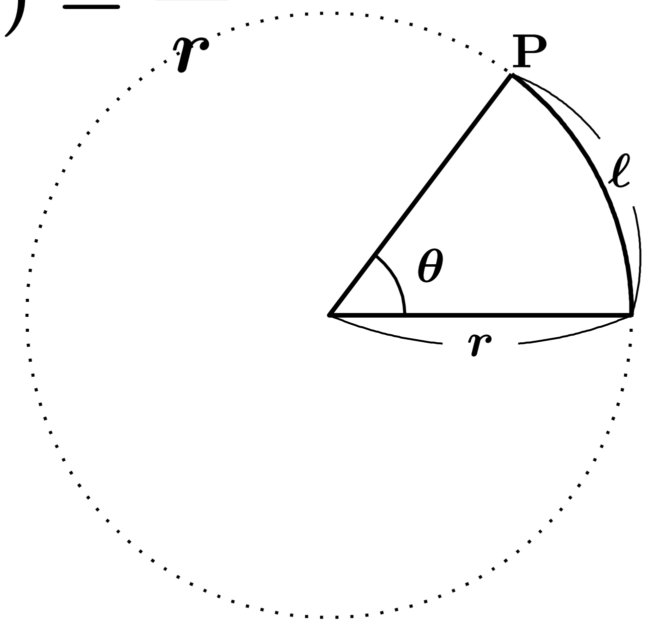
角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は



角度の測り方 2（弧度法）

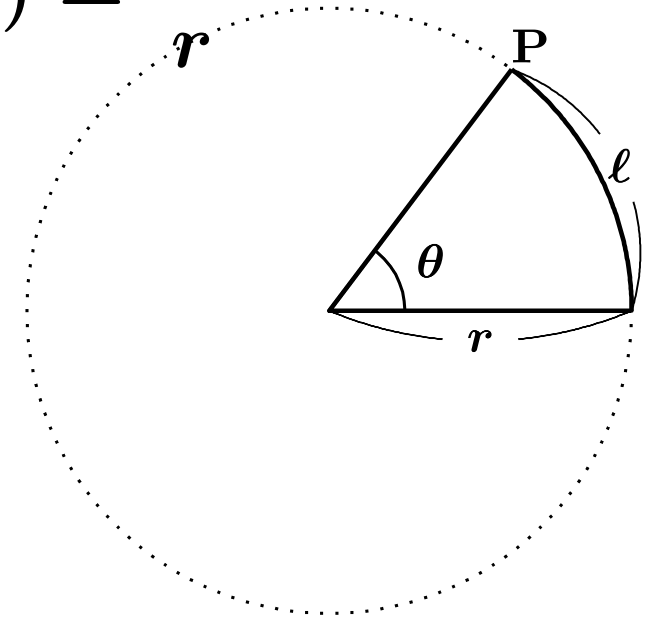
- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから



角度の測り方２（弧度法）

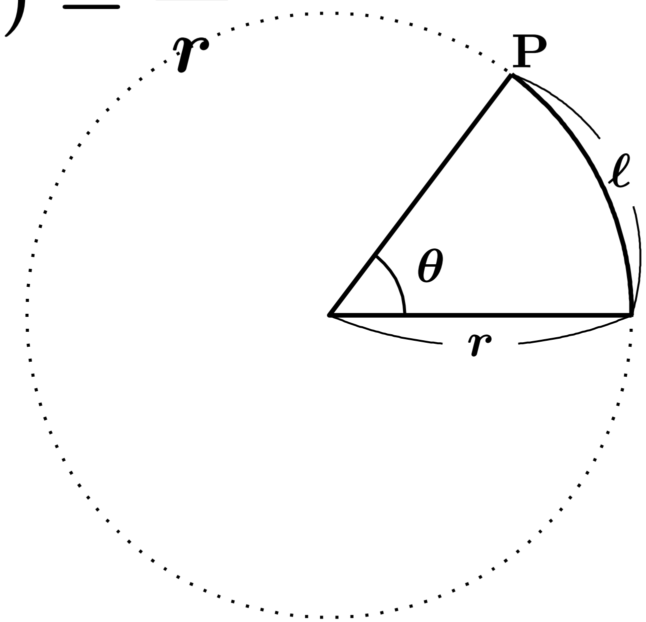
- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから

  1 周の角 $(360^\circ) = \dfrac{2\pi r}{r}$



角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから
  1 周の角 $(360^\circ) = \dfrac{2\pi r}{r} = 2\pi$

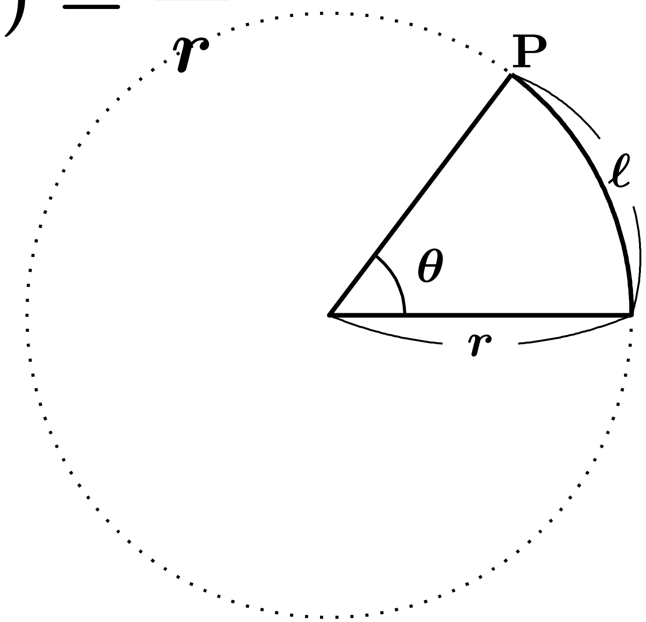


角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから

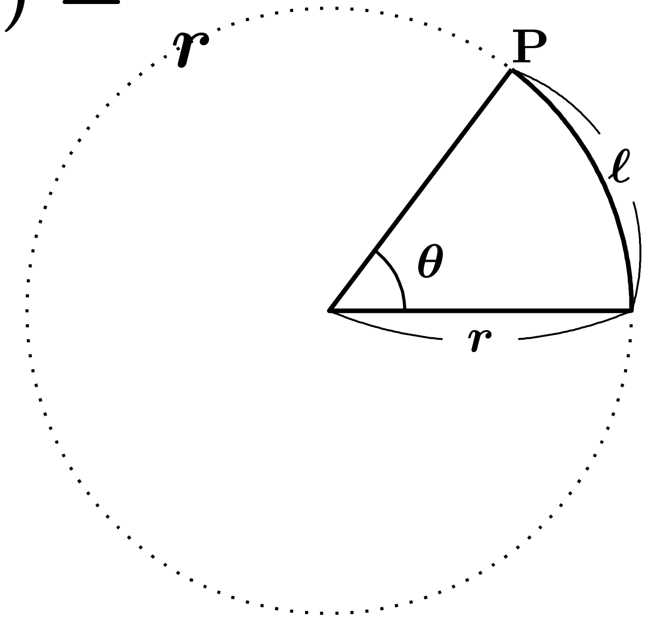
$$1\text{周の角}\ (360^\circ) = \frac{2\pi r}{r} = 2\pi$$

- 半周の角 (180°)



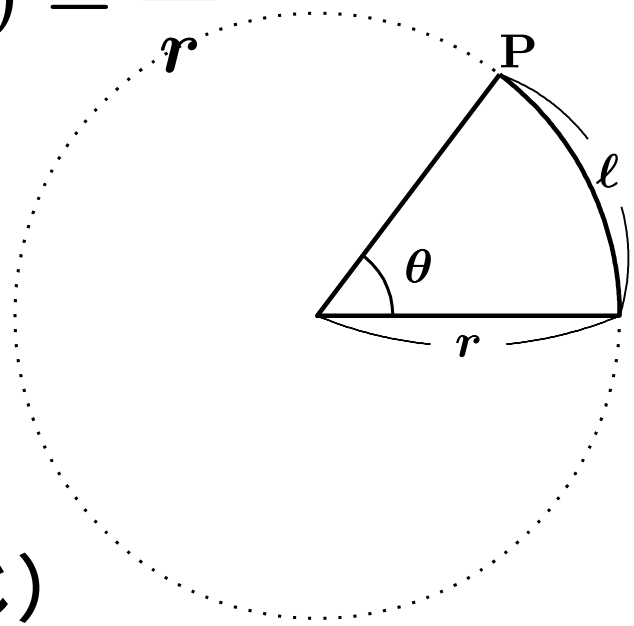
角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから
  $$1\text{周の角}\,(360^\circ) = \frac{2\pi r}{r} = 2\pi$$
- 半周の角 $(180^\circ) = \pi$



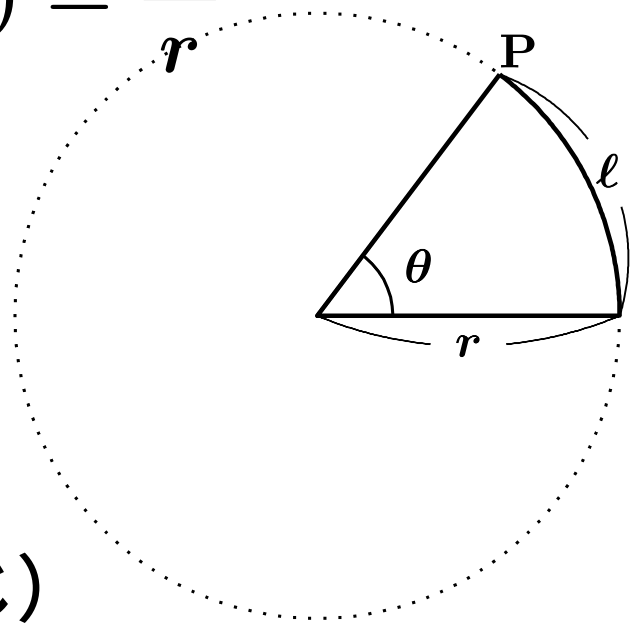
角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 θ(ラジアン) $= \dfrac{\ell}{r}$
- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから
  $$1\,周の角\,(360^\circ) = \frac{2\pi r}{r} = 2\pi$$
- 半周の角 $(180^\circ) = \pi$
- 比なので単位はない（sin などと同じ）



角度の測り方２（弧度法）

- 弧の長さ ℓ と半径 r の比 $\theta(\text{ラジアン}) = \dfrac{\ell}{r}$



- 半径 r の円周は $2\pi r$ だから
  1 周の角 $(360^\circ) = \dfrac{2\pi r}{r} = 2\pi$
- 半周の角 $(180^\circ) = \pi$
- 比なので単位はない（sin などと同じ）
  度と区別するときは，ラジアン (rad) を付ける

弧度法による角度の例

- $\mathbf{60^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の　，したがって　$\mathbf{60^\circ} =$

弧度法による角度の例

- $\mathbf{90^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の $\mathbf{\frac{1}{2}}$，したがって　$\mathbf{90^\circ =}$

弧度法による角度の例

- $\mathbf{90^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の $\dfrac{\mathbf{1}}{\mathbf{2}}$，したがって　$\mathbf{90^\circ = \dfrac{\boldsymbol{\pi}}{2}}$

弧度法による角度の例

- $\mathbf{90^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の $\dfrac{\mathbf{1}}{\mathbf{2}}$，したがって　$\mathbf{90^\circ = \dfrac{\boldsymbol{\pi}}{2}}$
- $\mathbf{60^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の　，したがって　$\mathbf{60^\circ =}$

弧度法による角度の例

- 90° は 180° の $\dfrac{1}{2}$，したがって　$90^\circ = \dfrac{\pi}{2}$
- 60° は 180° の $\dfrac{1}{3}$，したがって　$60^\circ =$

弧度法による角度の例

- $\mathbf{90^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の $\dfrac{\mathbf{1}}{\mathbf{2}}$，したがって　$\mathbf{90^\circ} = \dfrac{\boldsymbol{\pi}}{\mathbf{2}}$
- $\mathbf{60^\circ}$ は $\mathbf{180^\circ}$ の $\dfrac{\mathbf{1}}{\mathbf{3}}$，したがって　$\mathbf{60^\circ} = \dfrac{\boldsymbol{\pi}}{\mathbf{3}}$

弧度法による角度の例

- 90° は 180° の $\dfrac{1}{2}$，したがって　$90^\circ = \dfrac{\pi}{2}$
- 60° は 180° の $\dfrac{1}{3}$，したがって　$60^\circ = \dfrac{\pi}{3}$

課題 0509-6 次の角をラジアンで表せ．

[1] 30°　　[2] 45°　　[3] 120°

換算式

1つの角について，$x^\circ = y$(ラジアン) とする

換算式

1 つの角について，$x^\circ = y$(ラジアン) とする

比例関係 $\dfrac{y}{\pi} = \dfrac{x}{180}$

換算式

1 つの角について，$x^\circ = y$(ラジアン) とする

比例関係 $\dfrac{y}{\pi} = \dfrac{x}{180}$

これから $\boxed{y = \dfrac{\pi}{180}\,x}$ (ラジアンを求める式)

$\boxed{x = \dfrac{180}{\pi}\,y}$ (度を求める式)

換算式

1 つの角について，$x^\circ = y$(ラジアン) とする

比例関係 $\dfrac{y}{\pi} = \dfrac{x}{180}$

これから $\boxed{y = \dfrac{\pi}{180}x}$ (ラジアンを求める式)

$\boxed{x = \dfrac{180}{\pi}y}$ (度を求める式)

課題 0509-7 次の角を変換せよ (小数でよい)

[1] 3.1416　[2] 70°　[3] 10　[4] 10°

正弦関数と正弦曲線

- 一般角を x とおく．

正弦関数と正弦曲線

- 一般角を x とおく.
- 任意の x に対して，$y = \sin x$ の値が定まる.

正弦関数と正弦曲線

- 一般角を x とおく．
- 任意の x に対して，$y = \sin x$ の値が定まる．
- これを正弦関数という (三角関数の１つ)．

正弦関数と正弦曲線

- 一般角を x とおく．
- 任意の x に対して，$y = \sin x$ の値が定まる．
- これを正弦関数という (三角関数の１つ)．
- $y = \sin x$ のグラフを正弦曲線という．

正弦関数と正弦曲線

- 一般角を x とおく．
- 任意の x に対して，$y = \sin x$ の値が定まる．
- これを正弦関数という (三角関数の１つ)．
- $y = \sin x$ のグラフを正弦曲線という．
- x はラジアンとする．

正弦関数と正弦曲線

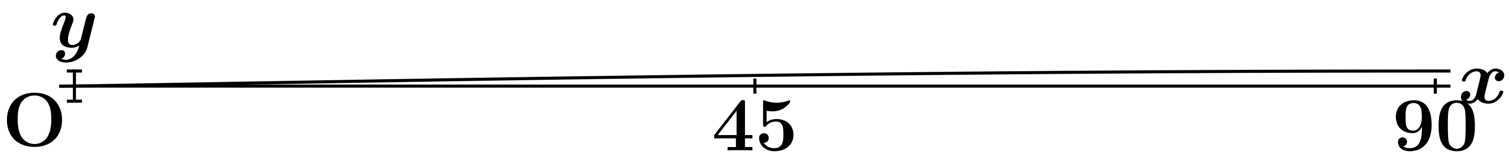
- 一般角を x とおく．
- 任意の x に対して，$y = \sin x$ の値が定まる．
- これを正弦関数という (三角関数の１つ)．
- $y = \sin x$ のグラフを正弦曲線という．
- x はラジアンとする．

  横軸を度とすると

正弦関数と正弦曲線

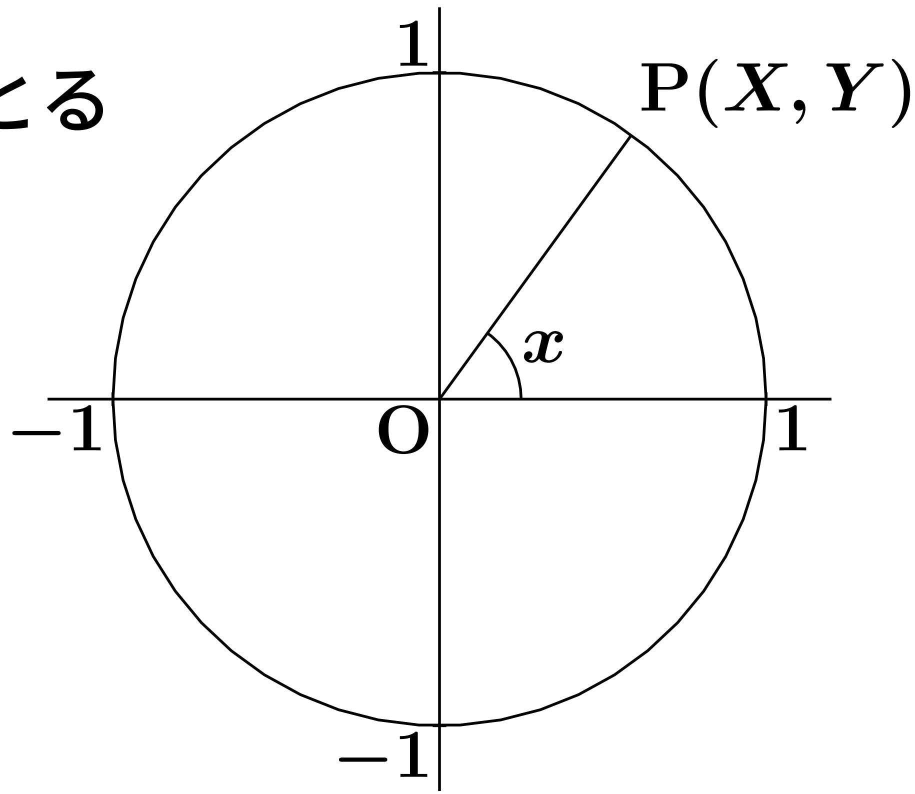
- 一般角を x とおく．
- 任意の x に対して，$y = \sin x$ の値が定まる．
- これを正弦関数という (三角関数の１つ)．
- $y = \sin x$ のグラフを正弦曲線という．
- x はラジアンとする．

横軸を度とすると



$y = \sin x$ のグラフ

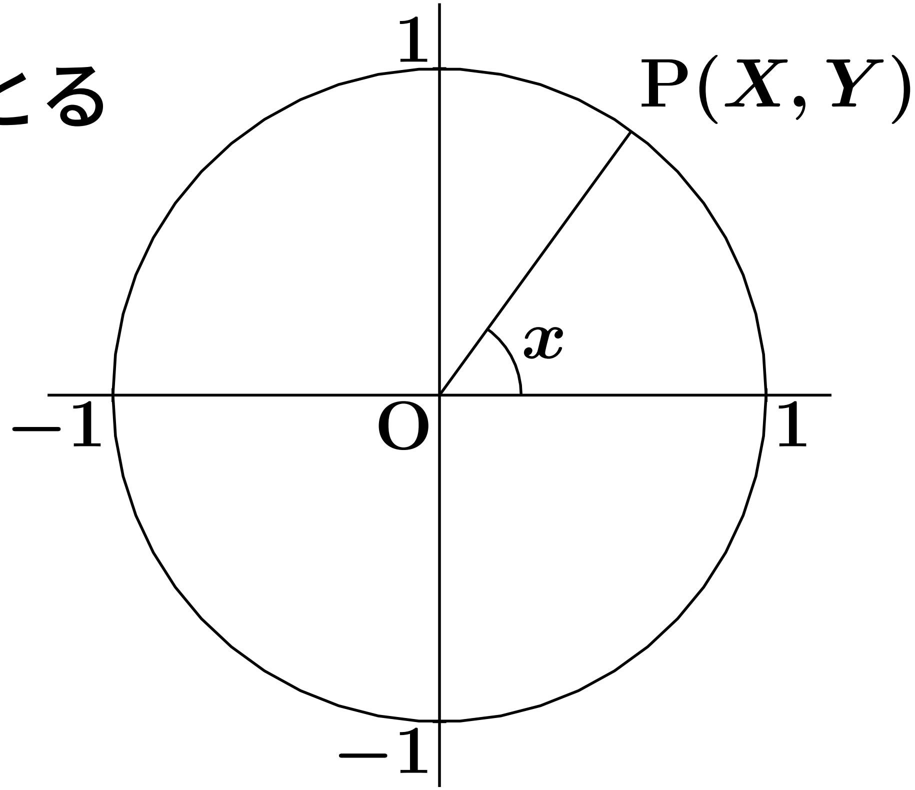
- 半径 1 の円に点 $\mathrm{P}(X, Y)$ をとる



$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 $\mathrm{P}(X, Y)$ をとる

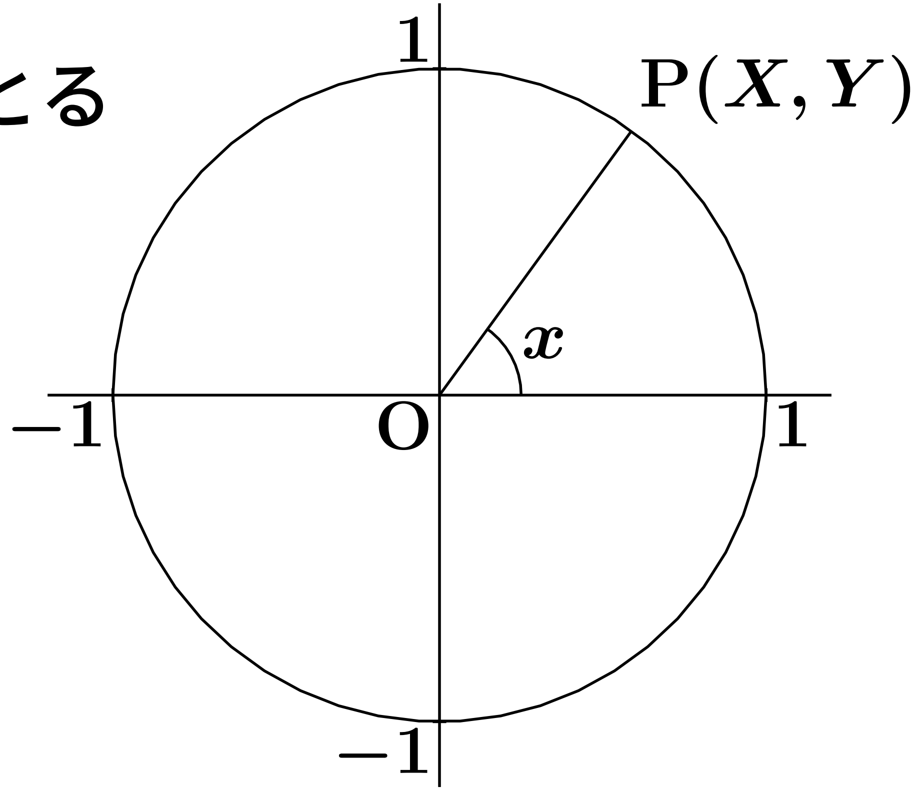
$$\sin x = \frac{Y}{r}$$



$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 $\mathrm{P}(X, Y)$ をとる

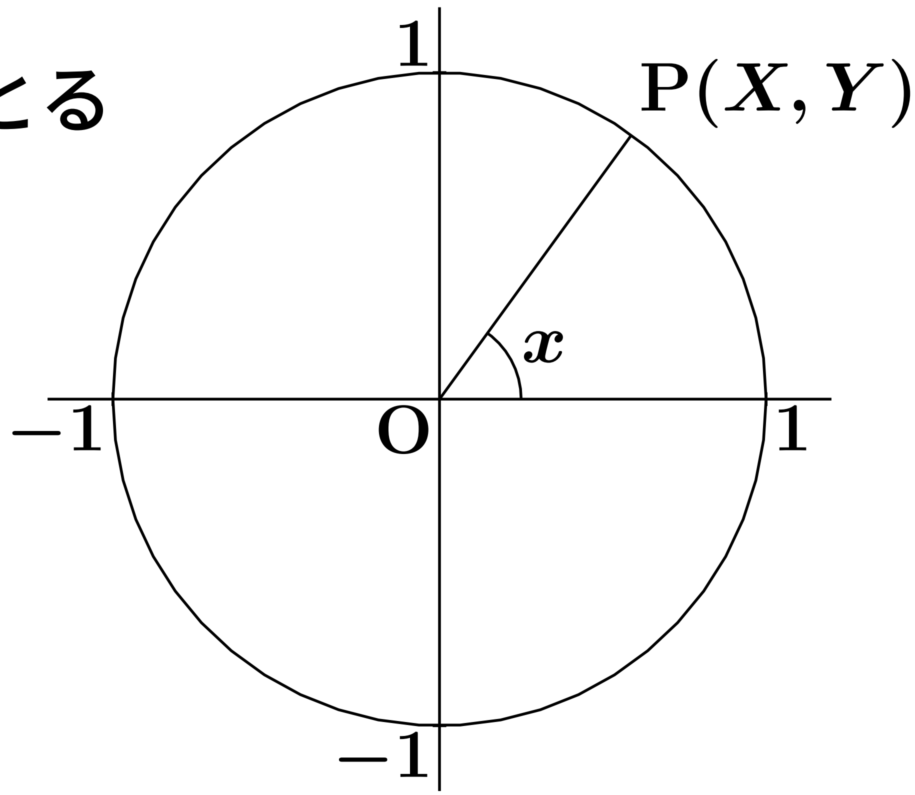
$$\sin x = \frac{Y}{r}$$



$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 $\mathrm{P}(X, Y)$ をとる

$$\sin x = \frac{Y}{r} = Y$$



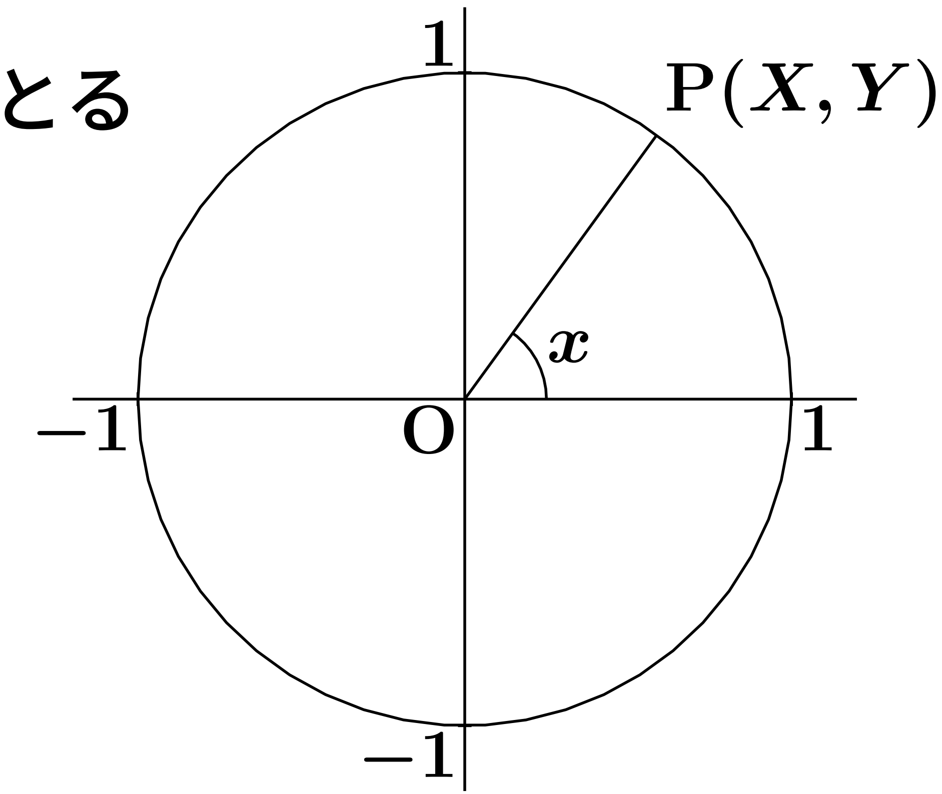
$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 $\mathrm{P}(X, Y)$ をとる

$$\sin x = \frac{Y}{r} = Y$$

- また弧の長さを ℓ とすると

$$x = \frac{\ell}{r}$$



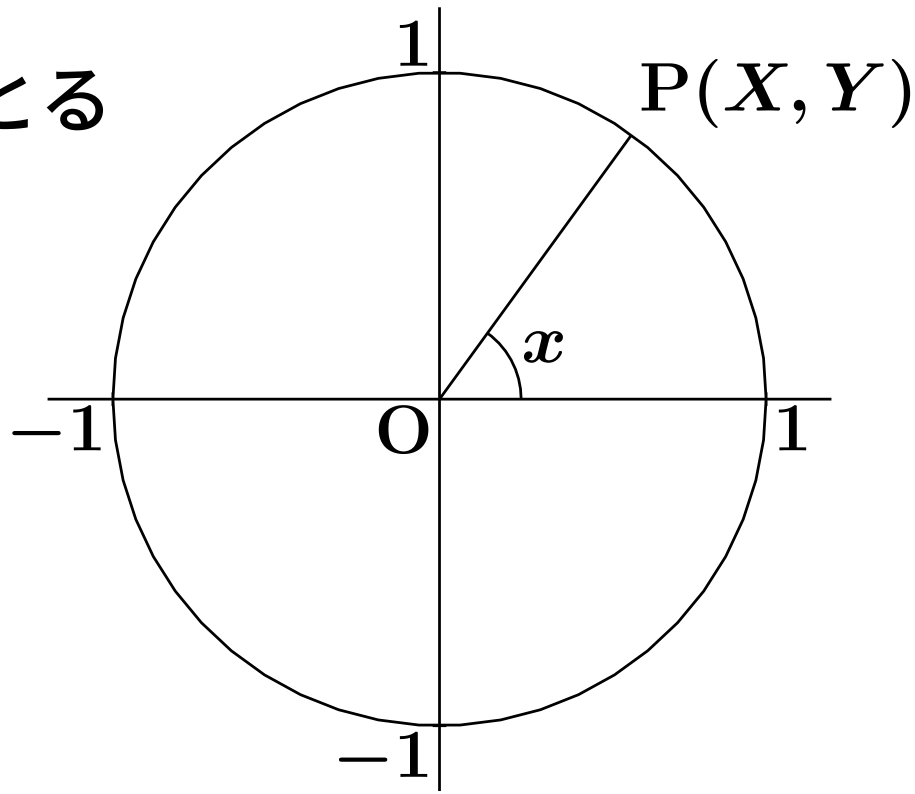
$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 P(X, Y) をとる

$$\sin x = \frac{Y}{r} = Y$$

- また弧の長さを ℓ とすると

$$x = \frac{\ell}{r}$$



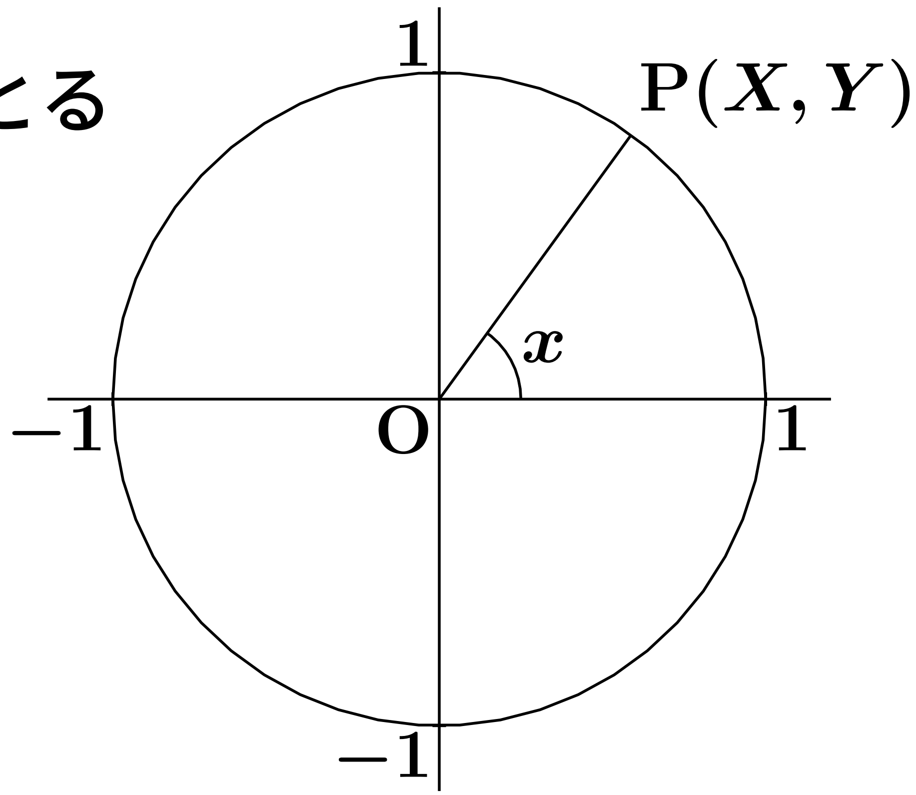
$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 P(X, Y) をとる

$$\sin x = \frac{Y}{r} = Y$$

- また弧の長さを ℓ とすると

$$x = \frac{\ell}{r} = \ell$$



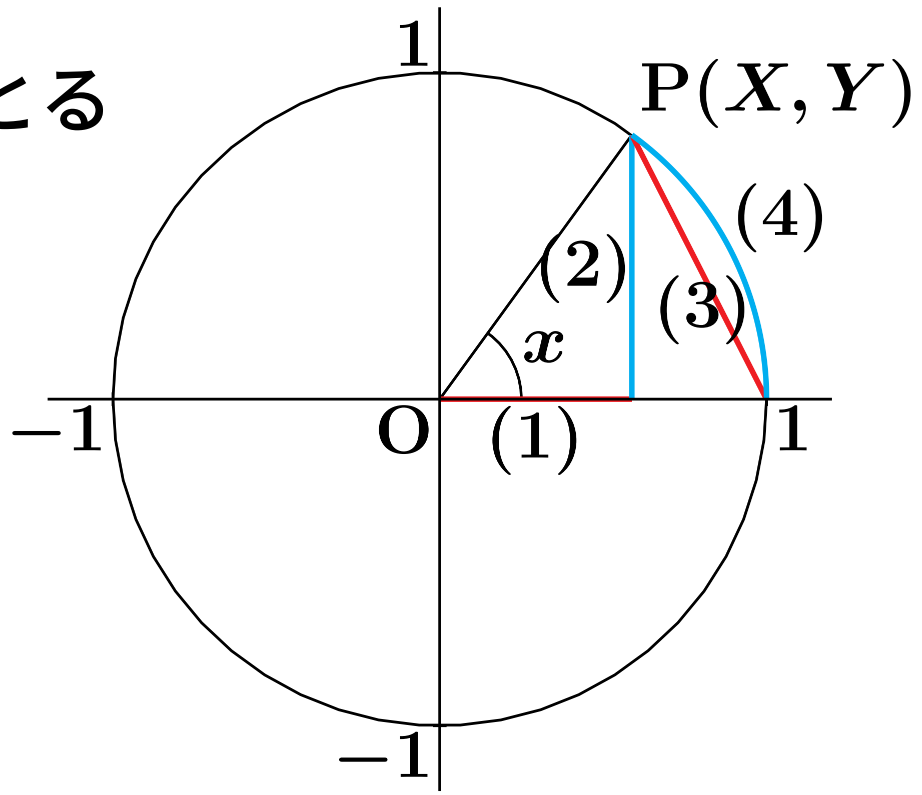
$y = \sin x$ のグラフ

- 半径 1 の円に点 P(X, Y) をとる

$$\sin x = \frac{Y}{r} = Y$$

- また弧の長さを ℓ とすると

$$x = \frac{\ell}{r} = \ell$$



課題 0509-8 x, $\sin x$ は

(1)-(4) のどの長さで表されるか．

[1] x は [2] $\sin x$ は

正弦曲線を描く

- アプリ「$y = \sin x$ のグラフ」を動かしてみよう
- 使い方

(1) 学生番号を入れる

(2) 赤い点を動かして x を決め，「点を打つ」

長さが x の弧を表示して $(x, \sin x)$ に点を打つ．

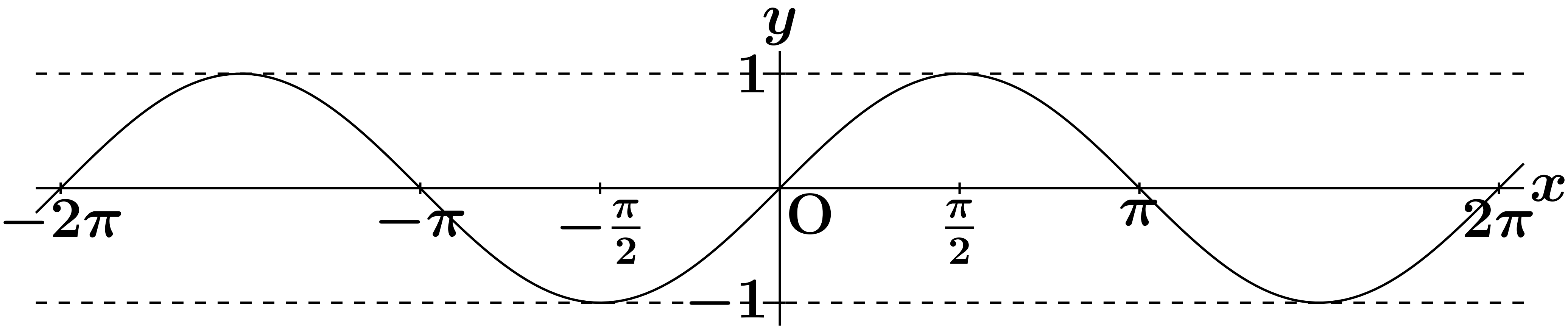
(3) いくつかの点を打って「点を結ぶ」

正弦曲線との違いが表示される

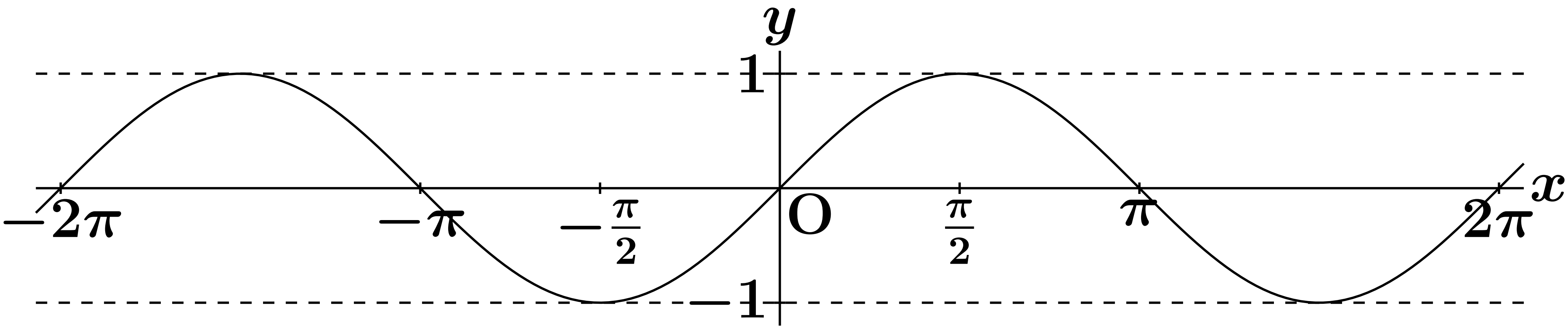
さらに「点を打つ」，「点を結ぶ」を繰り返す．

課題 0509-9「REC」を押して表示されるデータを提出せよ．

正弦曲線の特徴

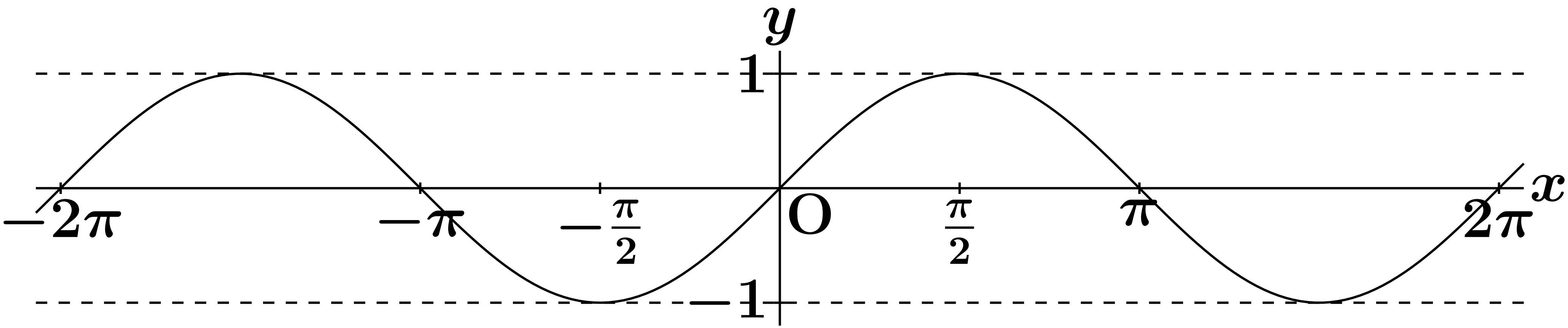


正弦曲線の特徴



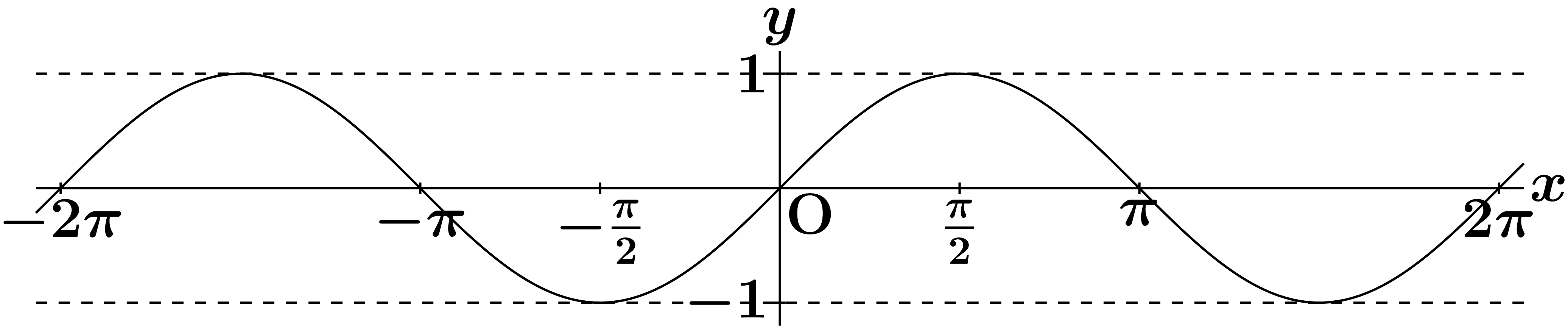
- 周期は

正弦曲線の特徴



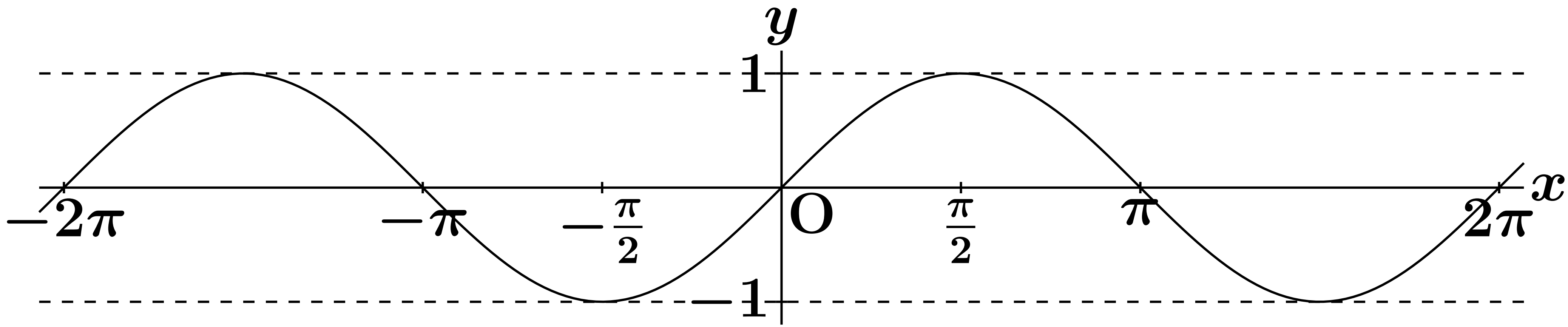
- 周期は 2π（2π で元に戻る）

正弦曲線の特徴



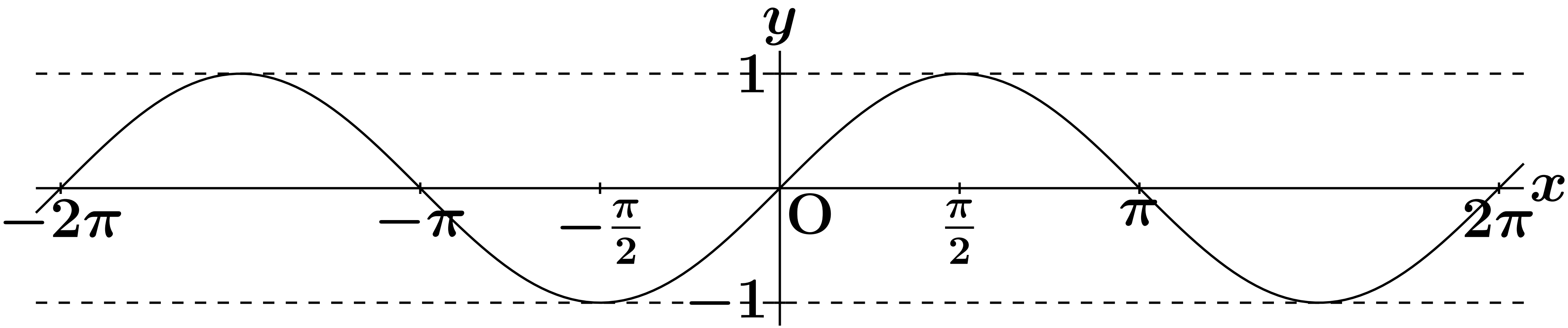
- 周期は 2π（2π で元に戻る）
- 振幅は

正弦曲線の特徴



- 周期は 2π（2π で元に戻る）
- 振幅は 1（値の範囲は -1 から 1）

正弦曲線の特徴



- **周期**は 2π（2π で元に戻る）
- **振幅**は 1（値の範囲は -1 から 1）
- 原点対称

正弦曲線 (課題)

課題 0509-10 アプリ「関数のグラフ」で次の関数のグラフをかき，周期と振幅を答えよ．

[1] $y = 2\sin x$　　[2] $y = \dfrac{1}{3}\sin x$

[3] $y = \sin 2x$　　[4] $y = 4\sin\dfrac{x}{2}$